

日常生活における困りごとの実態調査

高松圏域自立支援協議会 身体障害者支援部会
令和元年5月

目次

I. 調査の目的	1
II. 調査の概要	1
III. 調査結果	
• 記入者	2
• 年齢	2
• 性別	3
• 住まい	3
• 同居状況	4
• 頼れる人	4
• 障がいの種別	5
• 手帳の種別	5~6
• 日中の過ごし方	7
• 福祉サービスについて	8~9
• 住宅に関すること	10
• 医療に関すること	11
• 仕事に関すること	12
• 教育に関すること	13
• 情報収集に関すること	13~17
• 外出・活動に関すること	18~22
• 相談に関すること	23~27
• 地域生活に関すること	28~30
• 将来の生活に関すること	31~32
• 差別に関すること	33~36
• 災害に関すること	37~40

I.調査の目的

高松圏域自立支援協議会では平成 30 年度より、地域における身体障がいに関する困りごとの改善や支援の促進、地域への理解促進などを目的として、身体障害者支援部会を作ることとなった。まず、地域課題の抽出・整理を目的として、身体障がい者がどのように生活し、どのような困りごとがあるのか調査する。

II.調査の概要

1.調査対象

身体障害者手帳の交付を受けた 18 歳から 64 歳までの当事者のうち、高松圏域（高松市・三木町・直島町）に所在する施設入所支援、居宅介護、自立訓練、就労移行、就労継続（A 型・B 型）、グループホーム、生活介護事業所のいずれかと契約している方

2.調査期間

平成 30 年 11 月 21 日～平成 31 年 1 月 11 日

3.調査方法

高松圏域に所在する施設入所支援、居宅介護、自立訓練、就労移行、就労継続（A 型・B 型）、グループホーム、生活介護事業所の利用者定員に合わせて各事業所に用紙を持参した。対象となる利用者の選定は事業所に任せた。期日までに郵送にて回収した。

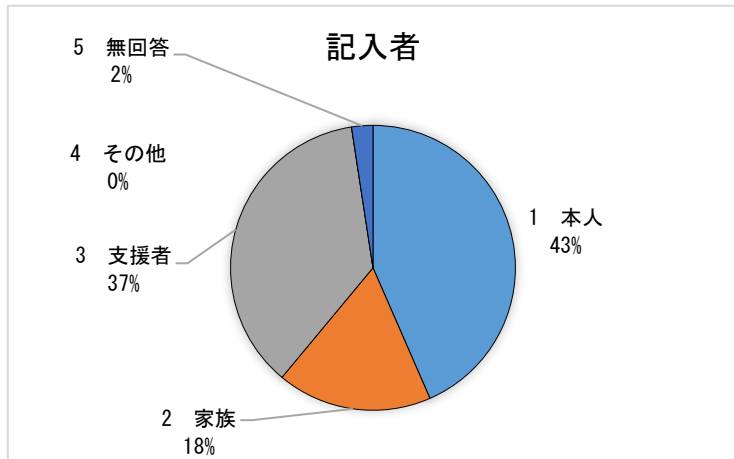
4.回収状況

調査数	回答数	回答率
383 件	290 件	76%

Ⅲ.調査結果

【記入者】

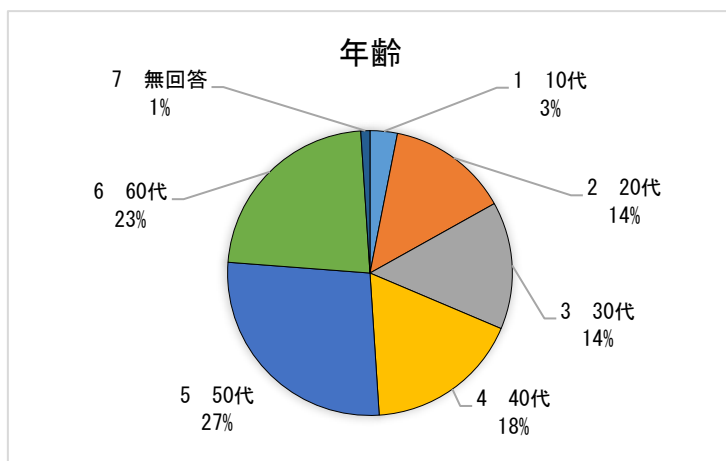
本人が 43%と最も多く、支援者が 37%、家族が 18%となっている。



【年齢】

問1 あなたの年齢をお答えください。あてはまるもの 1 つに○をしてください。

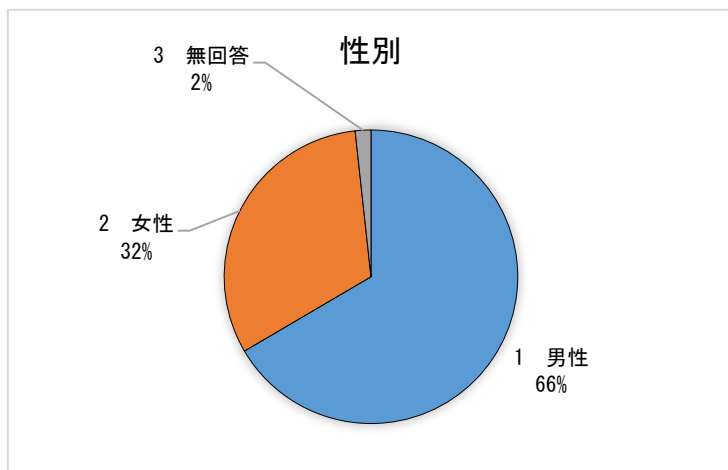
「50代」が 27%と最も多く、次いで「60代」が 23%となっており、合わせて全体の半数を占めている。



【性別】

問2 あなたの性別をお答え下さい。あてはまる方に○をしてください。

性別は、「男性」が66%、「女性」が32%となっている。

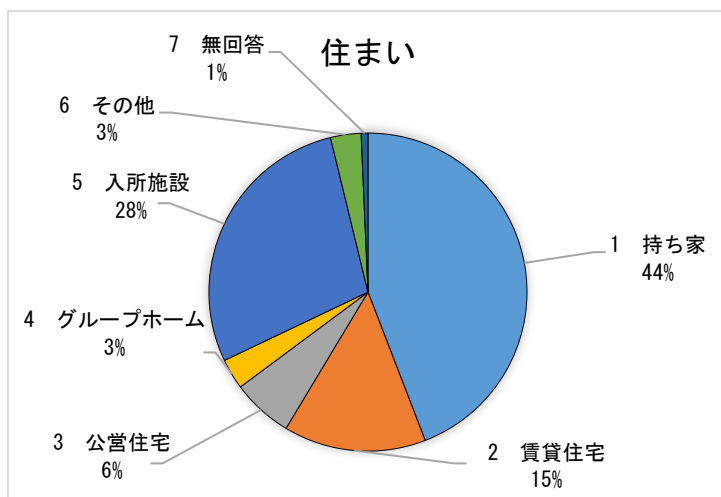


【住まい】

問3 あなたの住んでいるところをお答え下さい。あてはまるもの1つに○をしてください。

「持ち家」が44%、「入所施設」が28%、「賃貸住宅」が15%などとなっている。

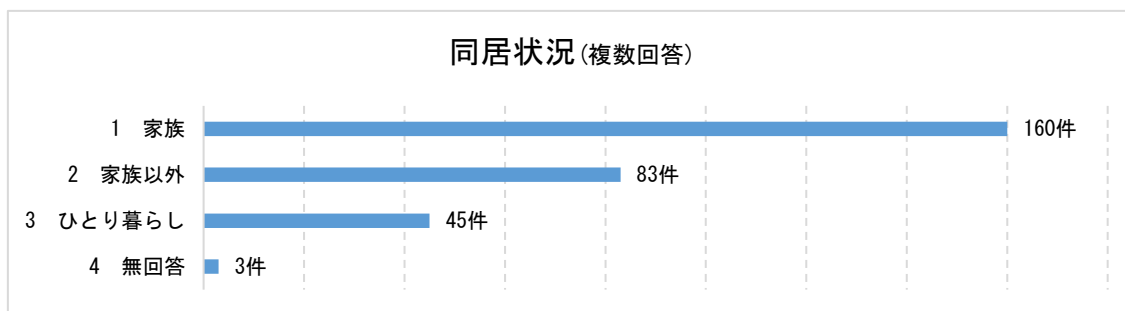
問4 [同居状況] と照らしあわせると「持ち家」で生活している人の75%が家族と生活している。



【同居状況】

問4 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

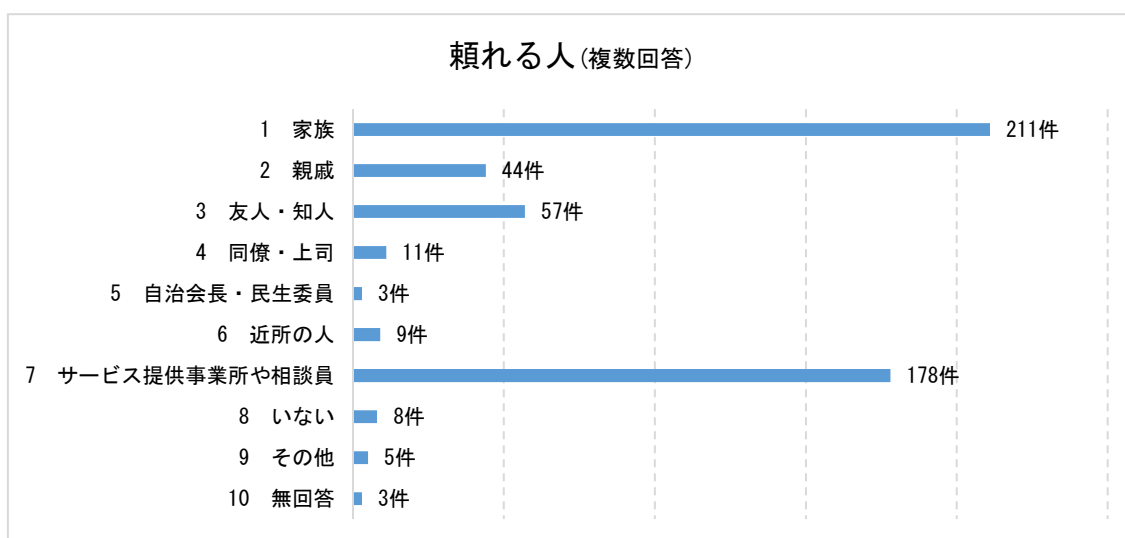
「家族」が160件、「家族以外」が83件、「ひとり暮らし」が45件となっている。
「家族以外」と回答したほとんどの人が、施設やグループホームの入所者と同居していると回答している。



【頼れる人】

問5 あなたが、普段生活する中で困ったときに頼れる人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

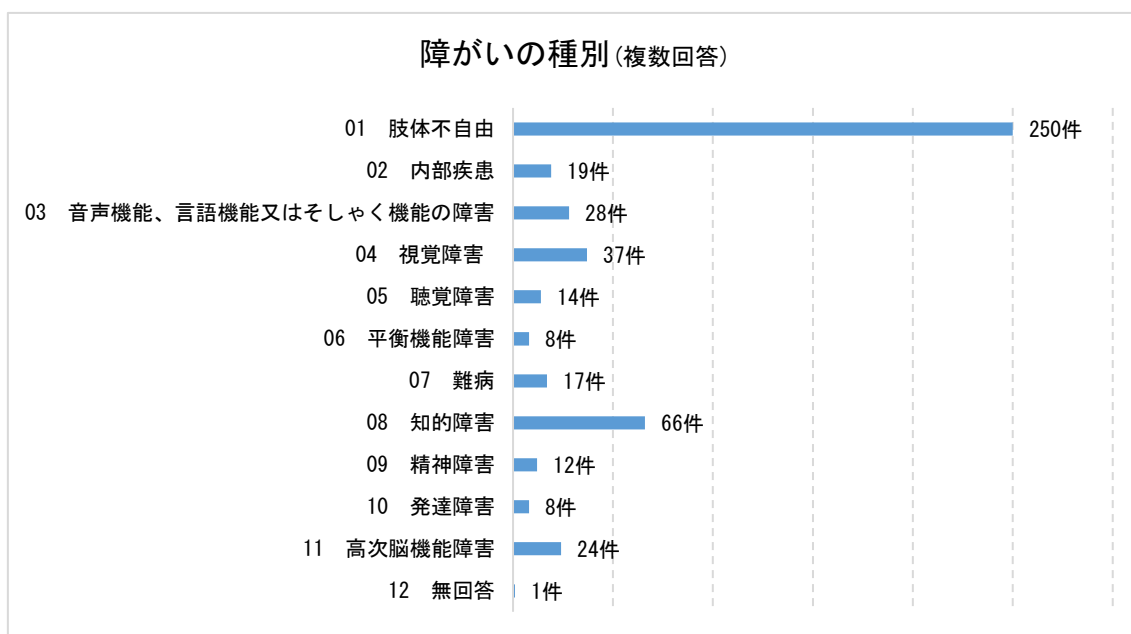
「家族」が211件と最も多く、次いで「サービス提供事業所や相談員」が178件、「友人・知人」が57件、「親戚」が44件などとなっている。「自治会長・民生委員」や「近所の人」は合わせて12件に留まっている。



【障がいの種別】

問6 あなたの障がいの内容をお答えください。あてはまるものすべてに○をしてください。

今回の調査では「肢体不自由」が250名と最も多く、次いで「視覚障害」が37名となっている。身体障がいとの重複障がいでは「知的障害」が66名、「高次脳機能障害」が24名となっている。

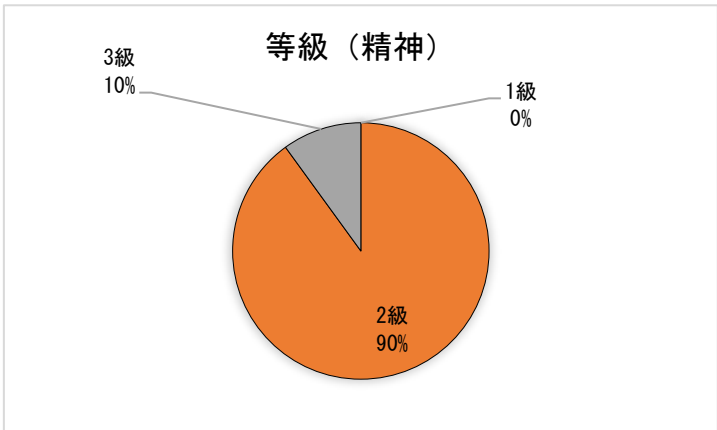
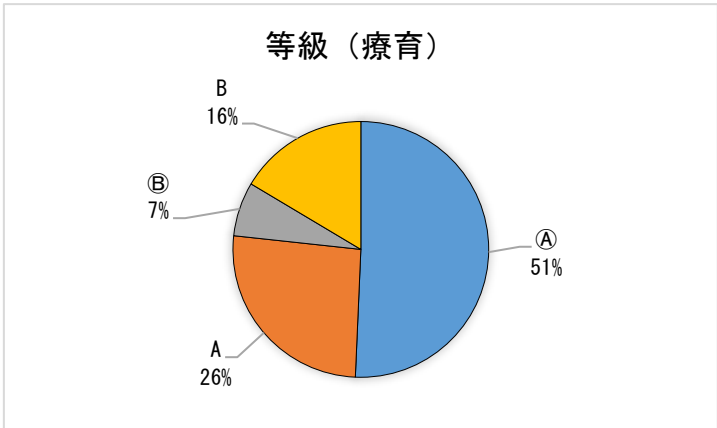
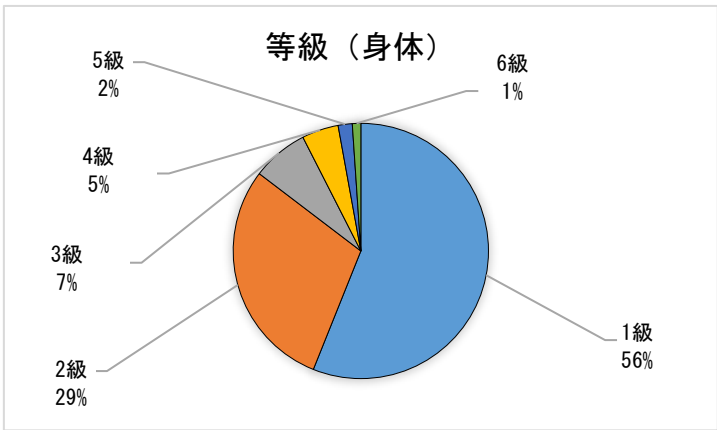
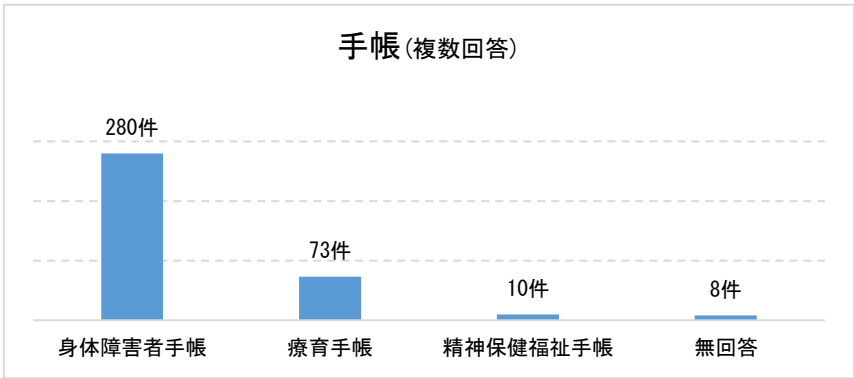


【手帳の種別】

問7 あなたの障害者手帳取得状況をお答えください。あてはまるものすべてに○をしてください。

「身体障害者手帳」が280件、次いで「療育手帳」が73件、「精神保健福祉手帳」が10件となっている。

等級は、身体障がい者は「1級」が56%、次いで「2級」が29%。療育手帳は「㊤」が51%、次いで「A」が26%と重度の障がい者が多い。精神保健福祉手帳は「2級」が90%と最も多く、次いで「3級」が10%、「1級」は0%となっている。

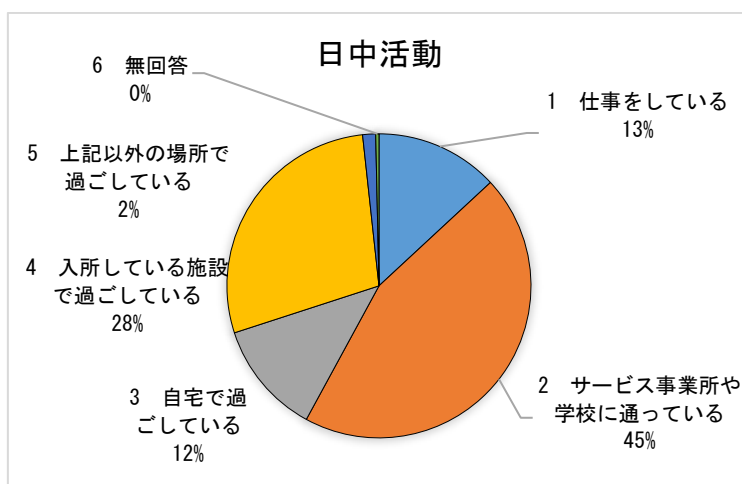


【日中の過ごし方】

問8 あなたの日中の過ごし方について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

「サービス事業所や学校に通っている」が45%と最も多く、次いで「入所している施設で過ごしている」が28%、「仕事をしている」が13%などとなっている。

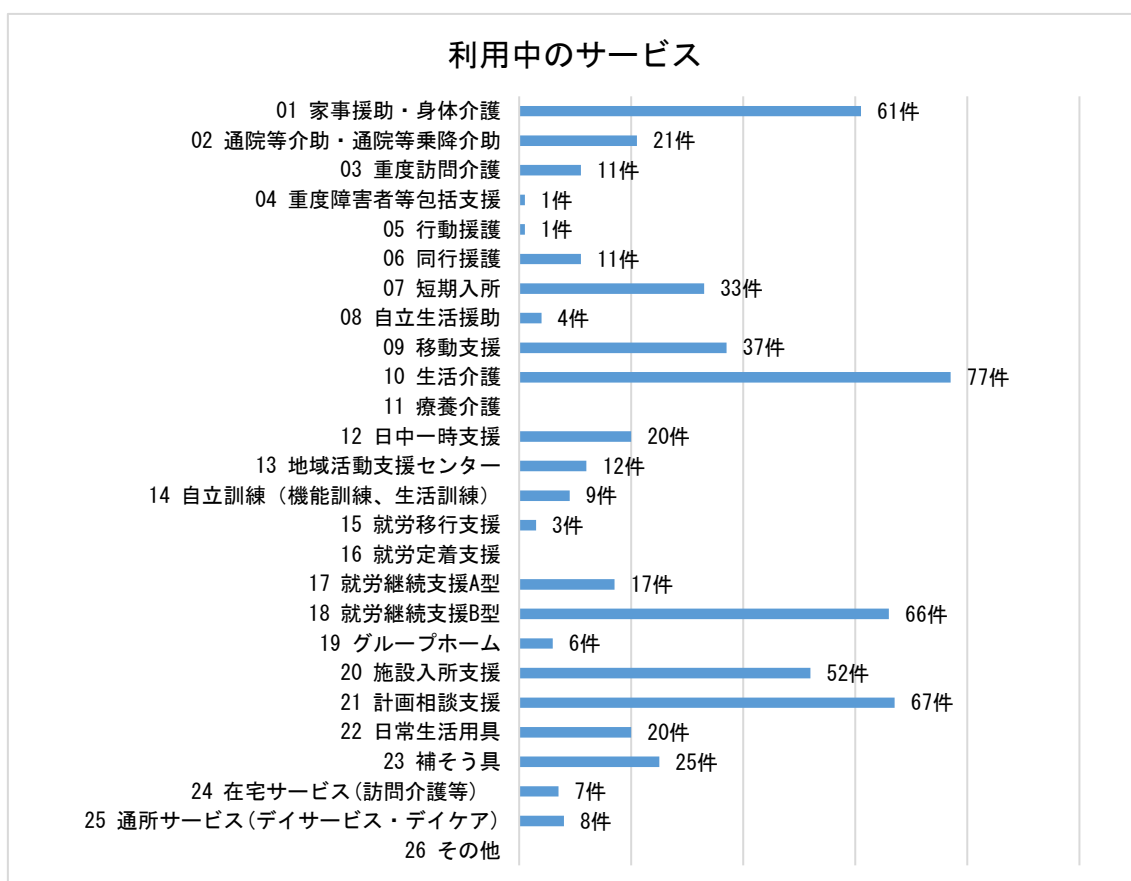
この設問での「仕事」は一般就労とは限っておらず、次の問9で利用している福祉サービスを就労継続支援B型と回答した方が多いことから、「仕事をしている」と回答した方の中には、就労継続支援A型・B型を利用している人も含まれると考えられる。



【福祉サービスについて】

問9 あなたが現在利用している福祉サービスの番号に○をつけてください。

「生活介護」が77件と最も多く、次いで「計画相談支援」が67件、「就労継続支援B型」が66件、「家事援助・身体介護」が61件などとなっている。障がい福祉サービスを利用している人を対象としているため、「計画相談支援」は必ず利用しているはずだが回答者数とは異なっている。



福祉サービスのことについて、困っていることを具体的にご記入ください

◎社会資源について

- ・ショートステイの事業所がない
- ・医療的ケアが必要なため、利用できる生活介護、短期入所の施設が少ない
- ・喀痰吸引を行っている事業所が少ない（ヘルパーの方の数が少ない）
- ・家族 1 人で介護しているので家族の急用時に対応（サービス時間の変更や追加）してもらえるか心配
- ・移動支援：自宅まで迎えに来てくれる事業所が少ないため希望が集中して予約がとれないため外出をあきらめないといけないことが多い
- ・30～50代で認知機能も正常なのに選択肢がデイサービスしかない
- ・家族が休息できるよう、色々なサービスを増やしてほしい
- ・事業所の車を使って移動できる場所を増やしてほしい など

◎事業所について

- ・事業所のヘルパー不足のため入浴介助の日数が取れない
- ・支援員の人数不足
- ・伝達がきちんとできていない
- ・気に入らない人には挨拶は無視で文句は言う など

◎制度について

- ・ヘルパーに吸引してもらえるようになるまで手続き等も含めて時間がかかる
- ・事業所が増えている為、各事業所の情報がわからない。市役所に行っても紙しかくれず選べと言われても難しい
- ・就労移行に行っているとアルバイトに行けない
- ・通院介助が定期的な通院以外に使えない
- ・同行援護で通院できない（宇多津・坂出はOK）
- ・外出などで1人では歩行等不安なので移動支援を使いたいが使えなくて困っている
- ・痰の量が多く頻回に吸引が必要なので吸引器（日常生活用具で給付）が耐用年数までもたない。修理不能にならないと新しく購入できない など

正しく自分の使っている福祉サービスを答えられていない回答が多く見受けられ、福祉サービス全般においての理解が不十分であると考えられる。

利用者自身が主体的に福祉サービスを選ぶために、サービス事業所の情報を紹介しているWAMNETなどの活用が考えられる。

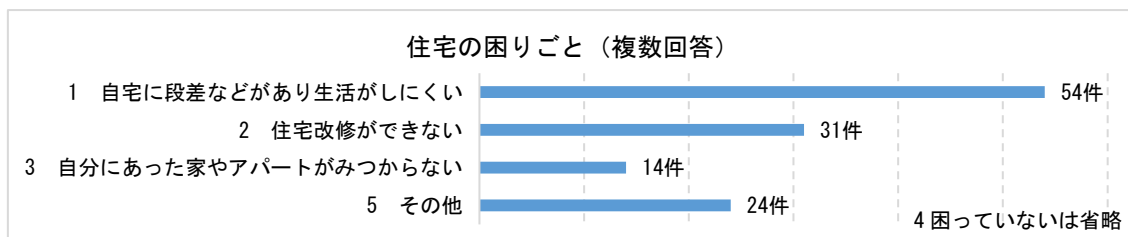
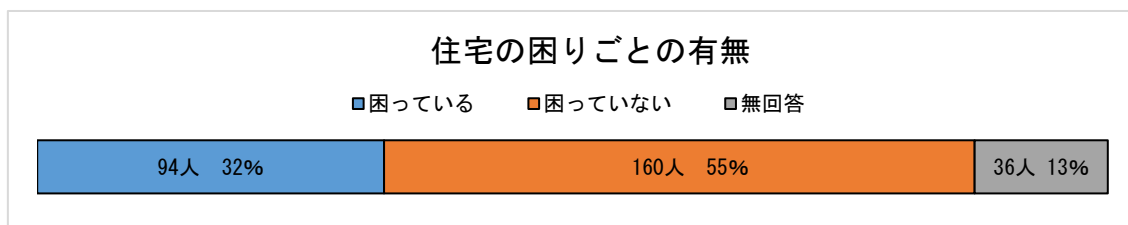
また、利用できる福祉サービスの事業所不足や人員不足により、利用者が求める十分な支援が受けられていないとの声もある。特に、医療的ケアが必要な人が利用できる事業所は限られている。幅広いニーズに対応できる人員や事業所を確保していく必要がある。

【住宅に関すること】

問 10 あなたが住んでいるところについて困りごとはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 32%が困りごとを感じている。住宅の困りごととして、「自宅に段差などがあり生活がしにくい」が54件、「住宅改修ができない」が31件、「自分にあった家やアパートが見つからない」が14件となっている。問3 [住まい] と照らしあわせると、住宅改修ができないと回答した人のうち、持ち家に住んでいる方は8%、賃貸・公営住宅に住んでいる人は20%となっている。

「困っていない」が最も多いが、その中で「持ち家」と「施設」で生活している人の割合が74%となっている。



※その他

- ・お風呂に段差があり入りづらい
- ・入り口にスロープがないので大変
- ・住宅改修する時に市役所の方に以前と違うことを言われた
- ・駐車場から玄関へのスロープがないので力が必要なので今後に不安がある
- ・介助する人の体力がだんだんに衰えている など

「困っていない」と回答した人は家族と同居している人が多い。環境面で不都合があっても、家族の支援があるため、困っていないと考えられる。

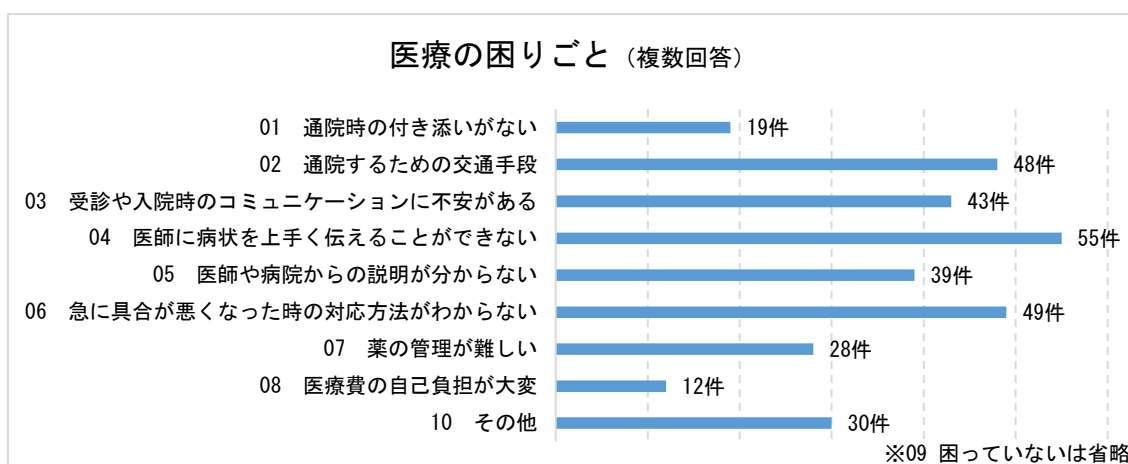
「その他」では、介助者の体力の衰えなど、将来についての不安の声もある。安心して在宅での生活をするためにも、住宅改修や日常生活用具、補装具など制度の情報提供を行う必要がある。また、同じ障がいをもつ人たちに住宅環境について経験したことを話してもらうなど、ピアサポーターからの情報提供なども有用と考えられる。

【医療に関すること】

問 11 あなたが医療に関して困ることはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 54%が困りごとを感じている。医療の困りごととして、「医師に病状を上手く伝えることができない」が 55 件、「急に具合が悪くなった時の対応方法がわからない」が 49 件、「通院するための交通手段」が 48 件となっている。

困っていないと回答した人のうち、問 4 [同居状況] と照らしあわせると、家族・家族以外と同居している人は 29%、ひとり暮らしの人は 17%とひとり暮らしの人のほうが困っている。



※その他

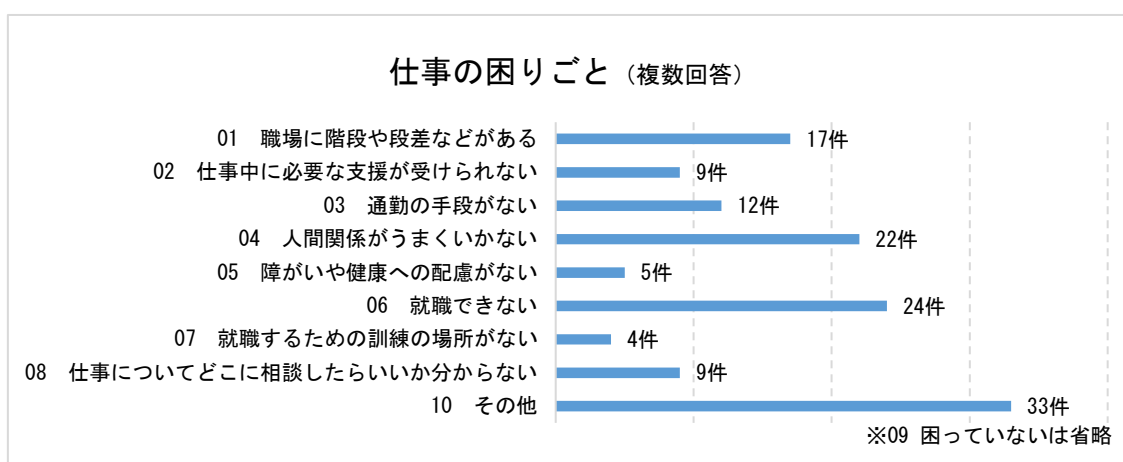
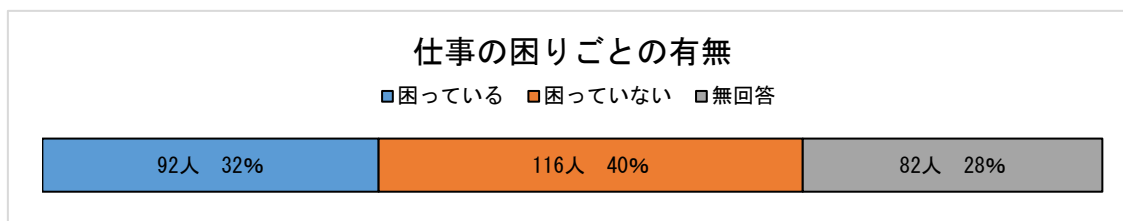
- ・しゃべりにくいため言いたいことを伝えにくい
 - ・家族がいる間はすべて困らない
 - ・母といっている
 - ・親がやってくれている
 - ・てんかん発作に対応してくれる神経内科が香川にない
 - ・体調不良時の通院の際に付き添いがほしい
- など

医療関係者とのコミュニケーションに不安を感じている人が多くいる。日頃から関わっている支援者が、コミュニケーションを取る時の配慮を医療機関に伝えることで、安心して受診できるのではないかと考えられる。また、急な体調不良に備えて、本人、家族、相談支援事業所などにて事前に緊急時の対応方法などを話し合っておくことも重要である。

【仕事に関すること】

問 12 あなたが仕事のことで困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 32%が困りごとを感じている。仕事の困りごととしては「その他」が 33 件、「就職できない」が 24 件、「人間関係がうまくいかない」が 22 件となっている。



※その他

- ・家から出られない人のための仕事がほしい
- ・仕事に重度訪問介護が認められないこと
- ・事業所の手すりがない
- ・トイレが狭い
- ・給料、収入面
- ・他の利用者どう接すれば良いのか迷う時がある
- ・仕事ができる状態ではない
- ・仕事は無理なので家族やいろんな人に助けてもらって暮らしている など

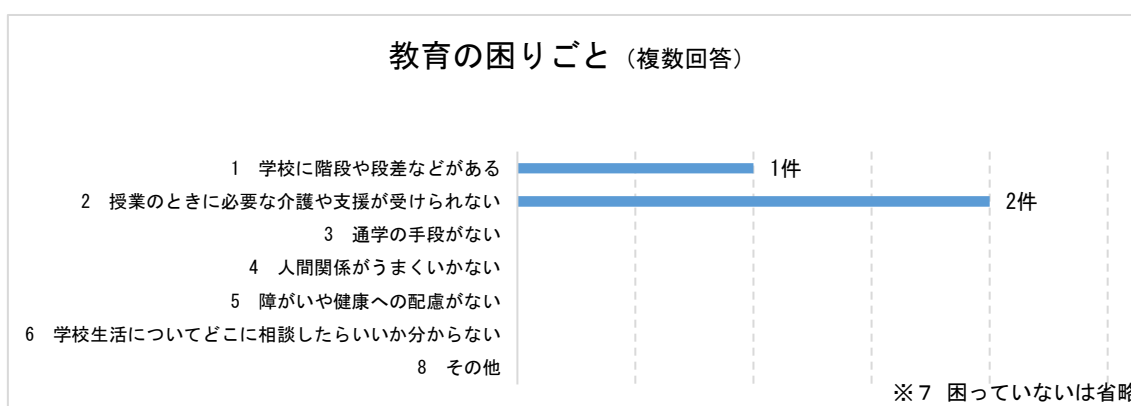
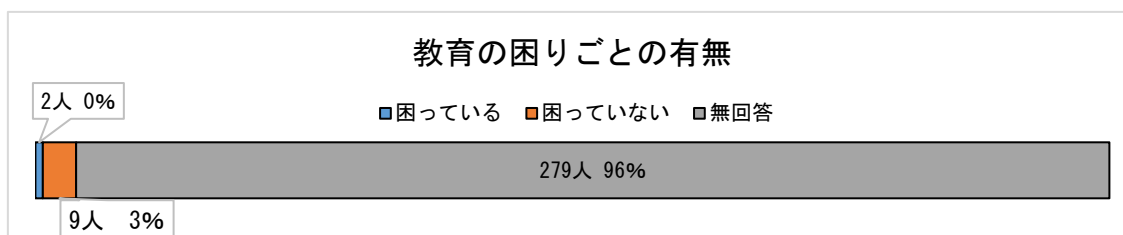
この設問で、「仕事」は一般就労とは限っておらず、回答した人の中には、就労継続支援A型・B型を利用している人も含まれると考えられる。

「困っている」の中では「その他」が一番多く、その中でも「仕事ができる状態ではない」など、仕事をしていない人が多い。また、「就職できない」、「就職するための訓練の場がない」との回答も多い。ハローワークや障害者就業・生活支援センターなどの関係機関との一層の連携が必要である。

【教育に関すること】

問 13 あなたは、大学や専門学校などで困ることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（現在、大学・専門学校に在学中の方にお聞きします。）

「困っていない」が9件で最も多く、「授業のときに必要な介護や支援が受けられない」が2件、「学校に階段や段差などがある」が1件となっている。

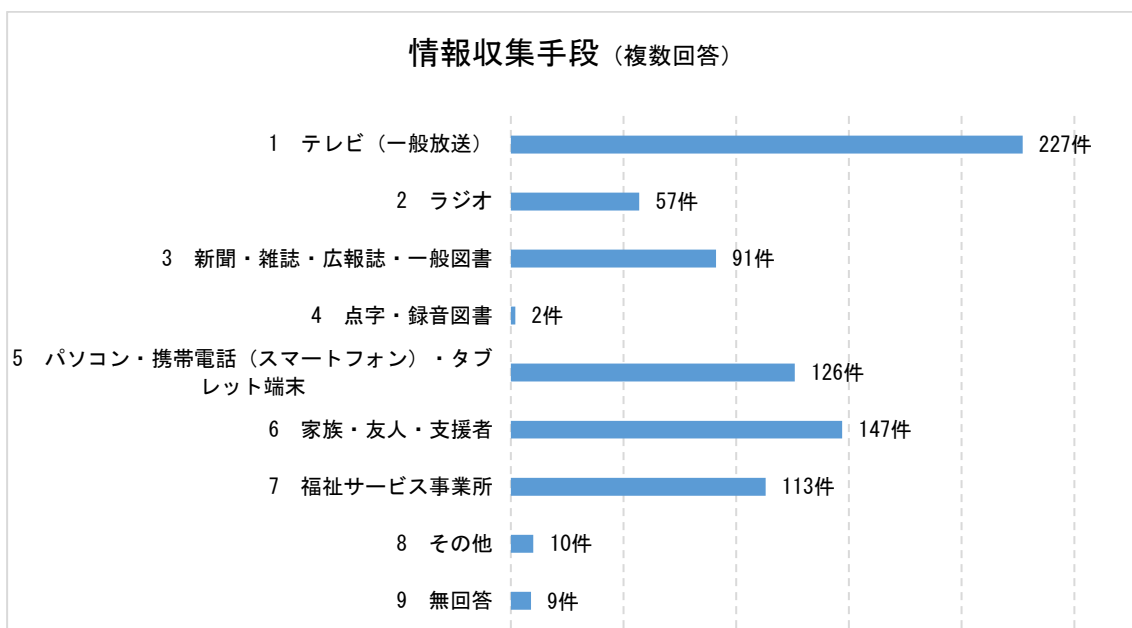


大学・専門学校に在学中の人と限定しているため無回答者が多く、大学・専門学校には通っていないため困っていないと回答した人もいると考えられる。

【情報収集に関すること】

問 14 (1) あなたが生活していくために必要な情報をどのように得ていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

情報を集める手段として「テレビ（一般放送）」が最も多く227件、次いで「家族・友人・支援者」が147件、「パソコン・携帯電話（スマートフォン）・タブレット端末」が126件、「福祉サービス事業所」が113件となっている。



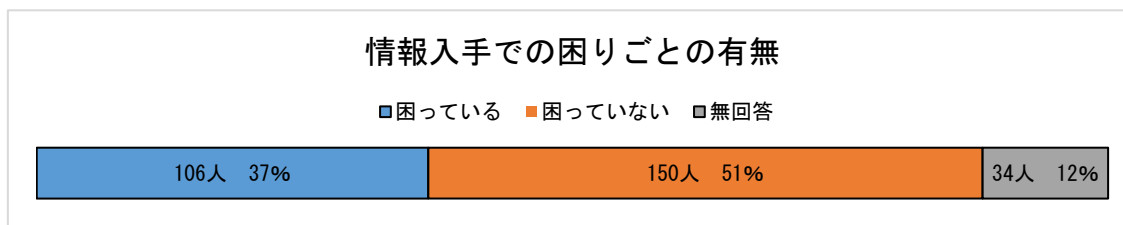
※その他

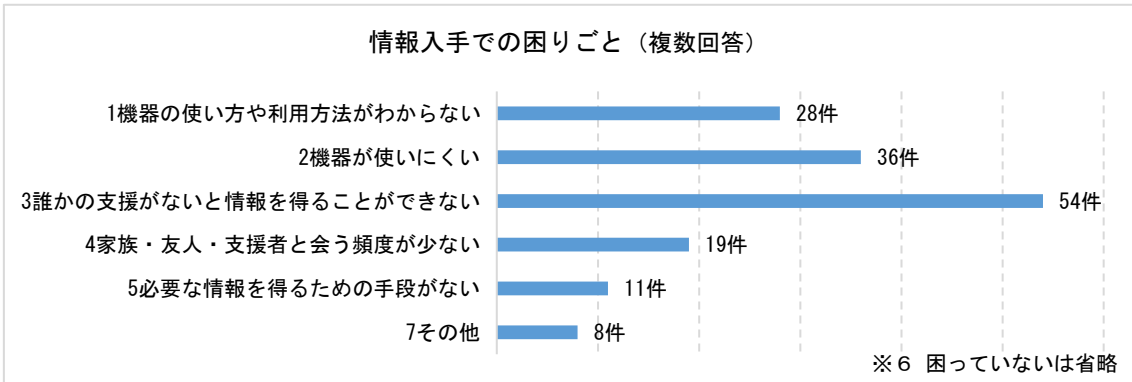
- ・ダイレクトメールの情報
 - ・市役所福祉課
 - ・当事者団体
 - ・親が全部している
 - ・理解できないため情報を得ることはできていない
- など

問 14（2） 必要な情報を得るうえでどのような困りごことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の約 37%が困りごとを感じている。情報を得るうえでの困りごととして、「機器の使い方や利用方法がわからない」「機器が使いにくい」の回答は合わせて 64 件、機器としては「携帯電話（スマートフォン）」「タブレット端末」「パソコン」が多い。

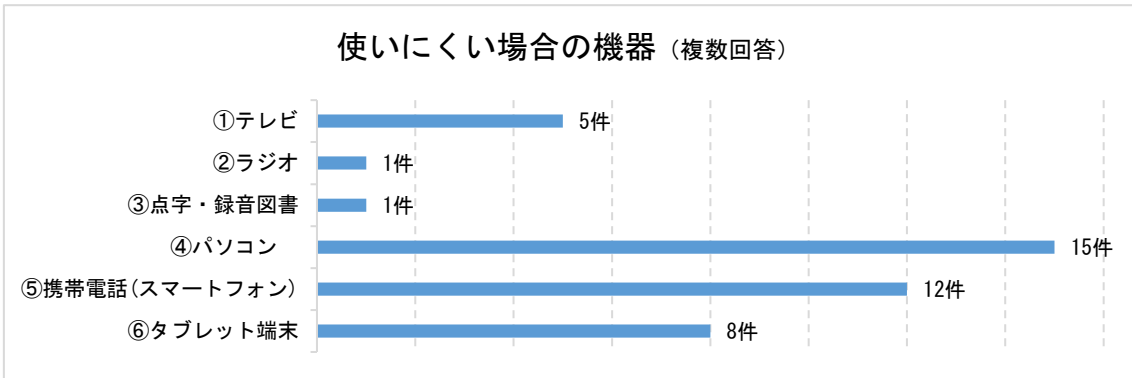
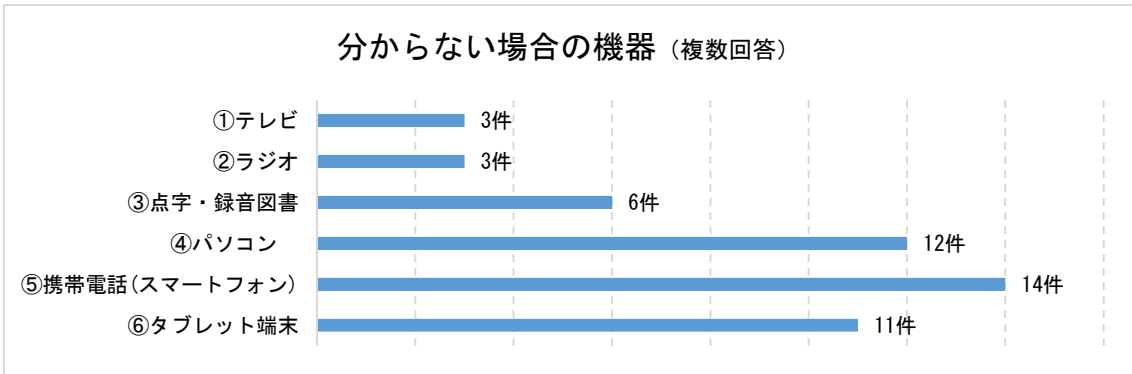
問6 [障害内容]と照らし合わせると視覚障害者の方が肢体不自由者と比べて、「機器の使い方や利用方法が分からない」「機器が使いにくい」と回答している。





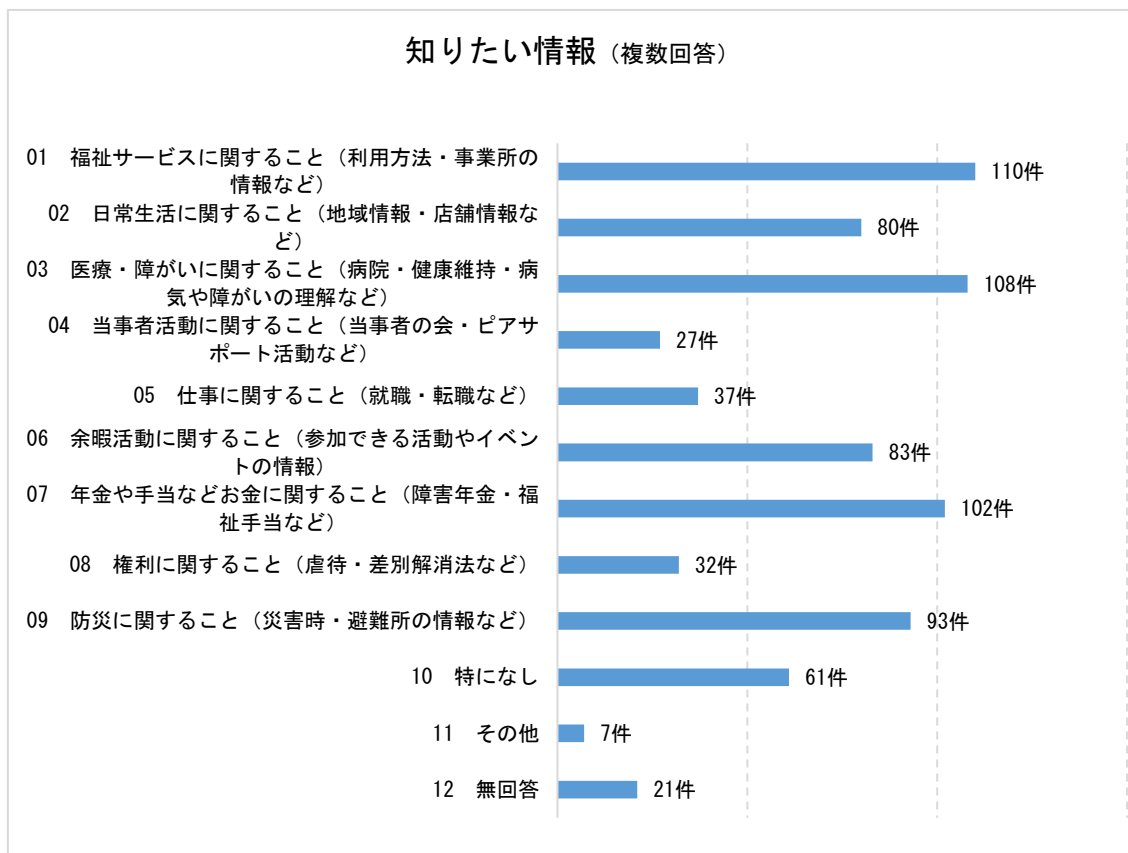
※その他

- ・スマホやタブレットは高い
- ・施設にWi-Fiがない
- ・点字が読めない
- ・誰に聞けばいいかわからない
- ・情報を発信しているところとなかなかつながれない など



問 14 (3) 今後、どのような情報を知りたいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

知りたい情報として、「福祉サービスに関すること（利用方法・事業所の情報など）」が最も多く 110 件、「医療・障がいに関すること（病院・健康維持・病気や障がいの理解など）」が 108 件、「年金や手当などお金に関すること（障害年金・福祉手当など）」が 102 件となっている。次いで、「防災に関すること（災害時・避難所の情報など）」「余暇活動に関すること（参加できる活動やイベントの情報）」「日常生活に関すること（地域情報・店舗情報など）」が多い。



※その他

- ・公になっている自ら得られるような情報ではない生きた情報
- ・障害者の関わる事件に関すること
- ・分からない
- ・本人がどのようなことを知りたいか分かりません

など

どのような情報が知りたいか具体的にご記入ください

◎福祉サービスについて

- ・サービス内容を知りたい
- ・生活介護の施設を教えてください
- ・介護の事業所の評判や運営状況
- ・障害者が生活していく上で新しい施設の設定
- ・介護保険への移行について

など

◎福祉サービス以外について

- ・パソコンを教えてくれる人が欲しい
- ・私で取得できる資格。調理師免許はあるのでそれに類する資格
- ・災害時どこに避難するかわからない
- ・仕事となる制度が使えないのでその相談先や的確なアドバイスいただける人がいない
- ・小児科から内科で診てくれる病院がない
- ・将来の事が不安なので、新しい情報はどんどん知りたい

など

情報獲得の手段として、テレビやラジオ・新聞など以外では、「パソコン・携帯電話（スマートフォン）・タブレット端末」など機器を使用する方法と「家族や支援者・福祉サービス事業所」など人から情報を得る方法に大別される。

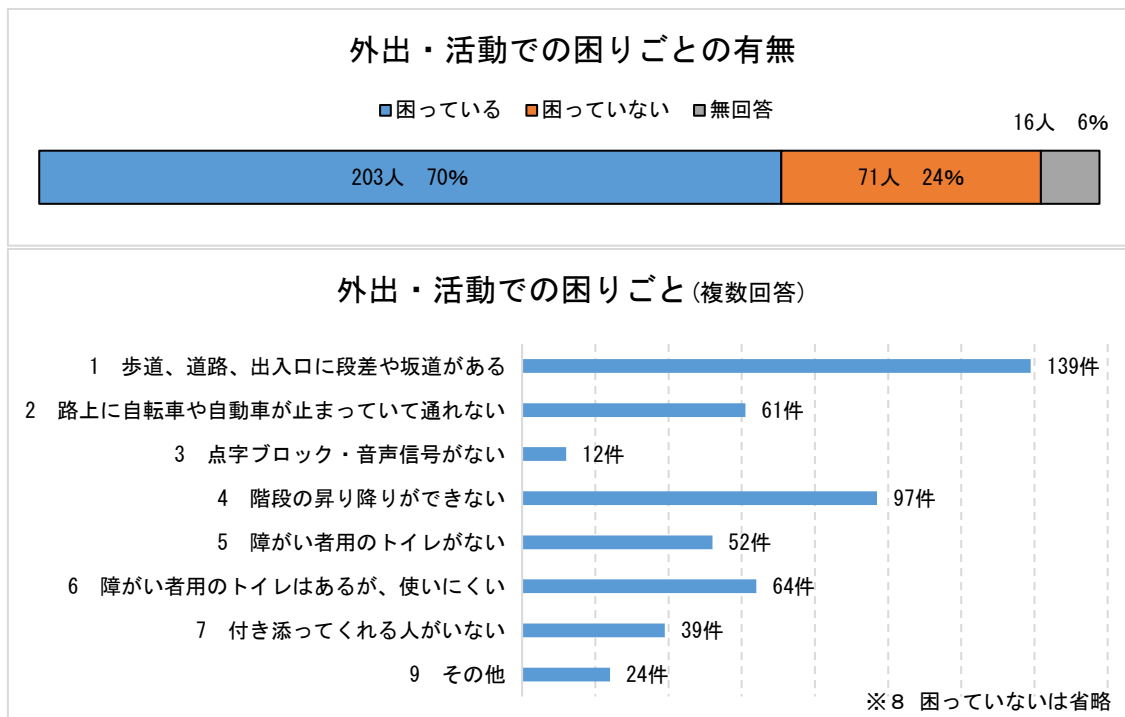
困りごとがあると答えた人の60%が「機器の使い方や利用方法が分からない」「機器が使いにくい」と感じている。情報収集をしやすくするため、香川県視覚障害者福祉センターのパソコン指導やかがわ総合リハビリテーション福祉センターのIT活用支援や福祉用具相談などを活用し、障がい特性にあった機器の活用方法の習得や環境調整に向けた支援が必要と考えられる。

また、日常生活に直結している福祉サービスや医療・障がい、お金に関する情報についてのニーズが多いものの、大規模災害への危惧からか、防災への関心も高くなっている。災害への備えや災害時の避難情報など、重要な情報を伝えられる仕組みを検討する必要がある。

【外出・活動に関すること】

問 15 (1) あなたが外出するときに困ることはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 70%は困りごとを感じている。外出・活動時の困りごととして、「歩道、道路、出入口に段差や坂道がある」が最も多く 139 件、「階段の昇り降りができない」が 97 件となっている。



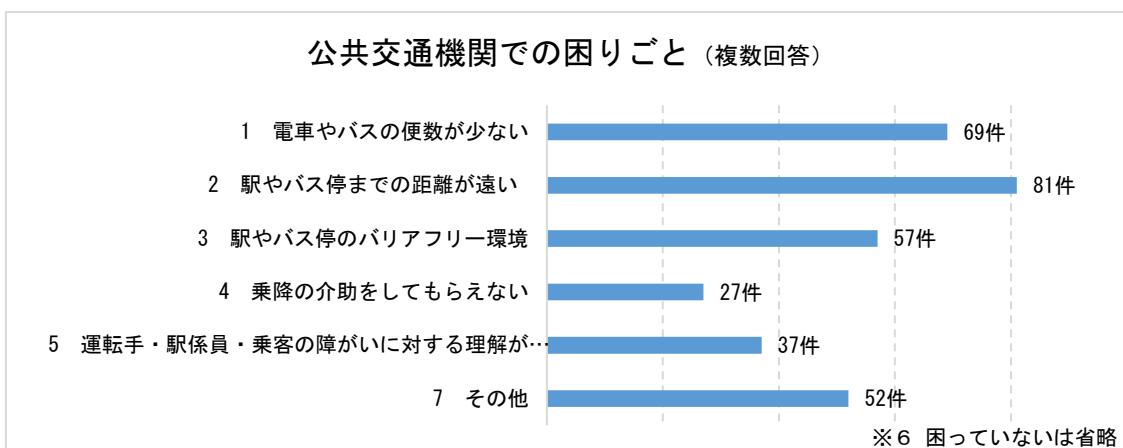
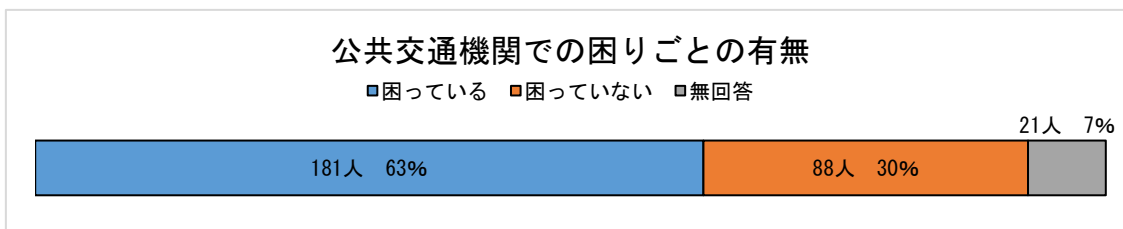
※その他

- ・医療ケアが必要で介助者が2人は必要
- ・フルリクライニング車いすで介助者2名が同乗できる介護タクシーが少ない
- ・障がい者用トイレに成人用トイレに成人用のおむつ交換台がないので困っている
- ・店の中での通路が狭く車いすで通りにくい
- ・視覚障がいがあり、外がまぶしすぎる
- ・決められた時間では足りないときがあり遊びに行きにくい
- ・宿泊場所の数が少ない
- ・親が病気した時に支援してくれる人が少ない
- ・わからない

など

問 15 (2) あなたが公共交通機関を利用するときに、どのようなことに困りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の63%は困りごとを感じている。公共交通機関の困りごととして、「駅やバス停までの距離が遠い」81件、「電車やバスの便数が少ない」69件、「駅やバス停のバリアフリー環境」57件となっている。

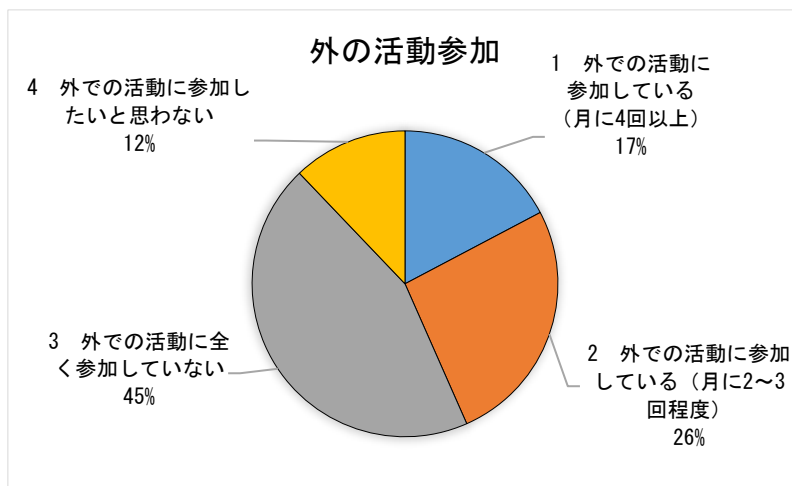


※その他

- ・利用していない
 - ・利用したことがない
 - ・利用の仕方がわからない
 - ・移動や動作に時間がかかる
 - ・公共機関使用は一人では危ないが誰もいない場合困る
 - ・電車の切符購入時現金での支払いが不便(電話で予約し、事前に取りに行く必要がある)
 - ・出先でのトイレに困るおむつ交換のときベッドが必要だが、大きくなるとベビーベッドは使えない。駅等にはフラットなベンチも少ないところがあるし、大人サイズのおむつ交換台がほしい
 - ・今は家族と一緒に困らない
- など

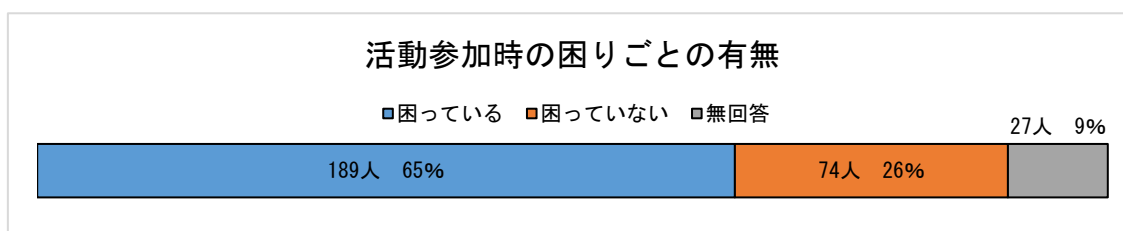
問 15 (3) あなたは外に出て、いろいろな活動に参加していますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

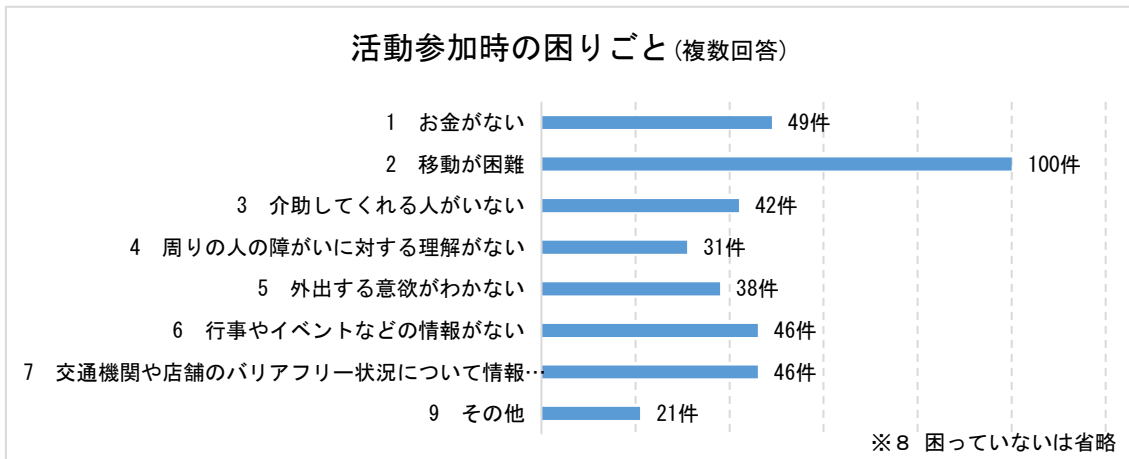
参加している外出活動として、「外での活動に全く参加していない」45%、「外での活動に参加している（月2～3 回程度）」が26%、「外での活動に参加している（月に4回以上）」17%となっている。



問 15 (4) あなたが活動に参加する際に困ることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の65%が困りごとを感じている。活動に参加する際に困ることとしては、「移動が困難」が最も多く100件となっている。問15(3)と照らし合わせると「外での活動に全く参加していない」と回答した人の内23%の人が「移動が困難」と回答している。



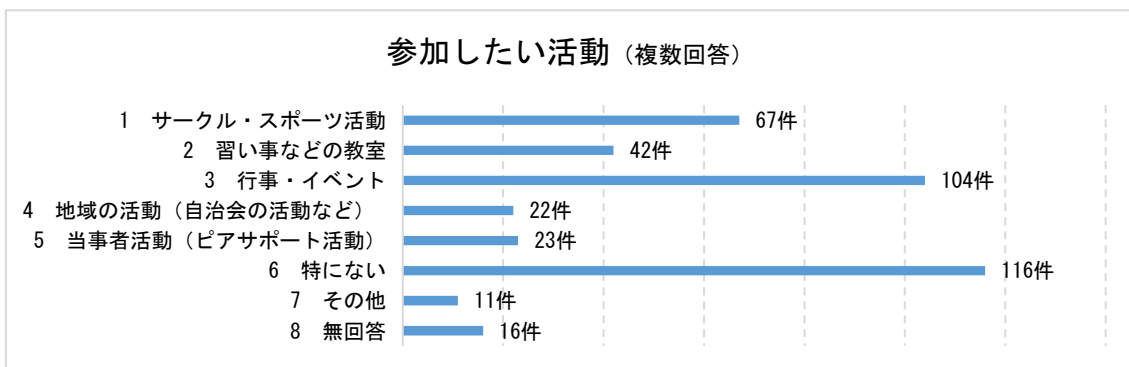


※その他

- ・付き添ってもらえる人がいないため参加出来ていない
 - ・行きたくてもいけない場合がある。特に同性同士でないと困る
 - ・バリアフリーの建物や施設がない
 - ・トイレおむつ交換
 - ・和式トイレしかないところもある。障がい者用のトイレのないところがある
 - ・興味のあるものが少ない
 - ・参加したいと思う活動の場がない
 - ・障害者用の習い事が（高松市のように）あれば気軽に外出がもっと楽しめると思う（特に重度な場合において）
- など

問 15（5） あなたはどのような活動に参加してみたいですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の54%が何らかの活動に参加してみたいと思っている。参加してみたい活動としては、「行事・イベント」が104件、「サークル・スポーツ活動」が67件、「習い事などの教室」が42件となっている。



※その他

- ・スポーツ観戦・観劇（宝塚とかエアロピクスとか）
- ・阪神タイガース(のプロ野球)の試合を真近で見たい
- ・絵本製作、自費出版の為の就職活動
- ・障害者にもっとアルバイトできるところが欲しいです
- ・わからない

など

外出時は「歩道、道路、出入口に段差や坂道がある」「階段の昇り降りができない」などの環境面について困っていることが多い。

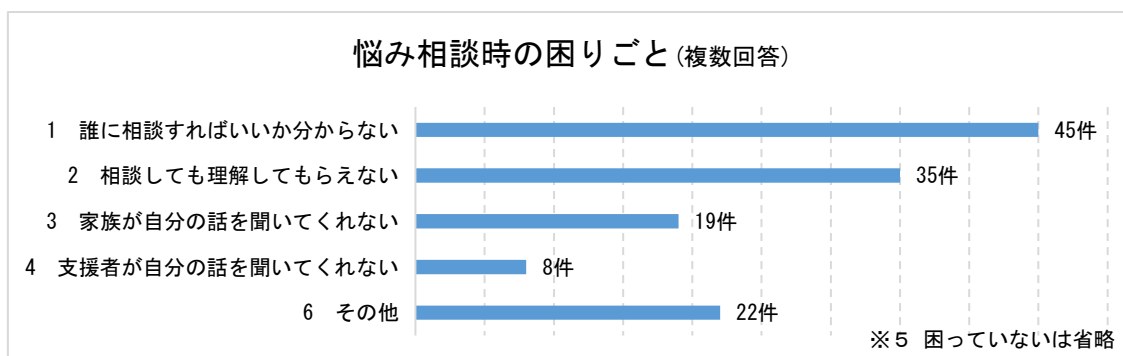
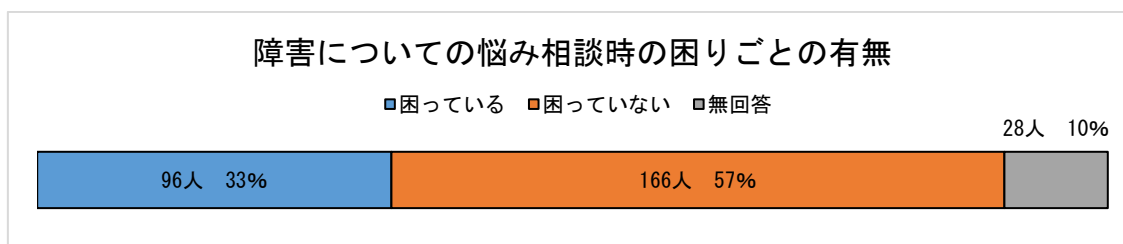
公共交通機関については、駅までの距離や電車やバスの便数の少なさなど、利便性や駅のバリアフリー環境に課題があり日常の移動手段としては使いにくい状況がある。また、公共交通機関をそもそも利用したことがなく、利用方法が分からないとの意見も多い。

また、障がい者用トイレについて、「少ない」という回答より「あるが使いにくい」という回答のほうが多い。より身体障がい者が使いやすい設備について検討していく必要がある。身体障がい者の参加を促進するために、移動手段を確保する必要であると考えられる。

【相談に関すること】

問 16 (1) あなたが障がいについての悩みを相談する時に困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の33%が困りごとを感じている。相談をする時の困りごととして「誰に相談すればいいかわからない」45件、「相談しても理解してもらえない」35件となっている。また、その他では「相談しても解決しない」「満足できる答えをくれない」といった回答もあった。



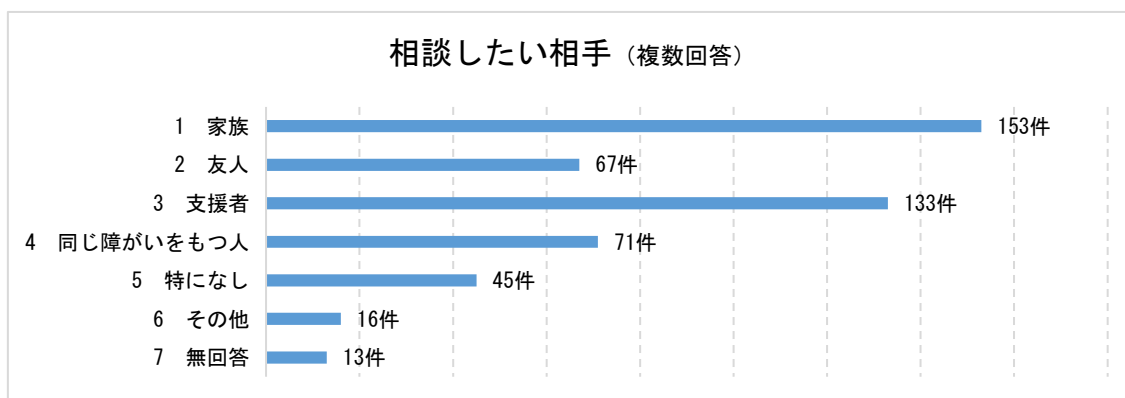
※その他

- 相談しても満足できる結果にはならない
- 相談しても解決しない
- その都度悩みが違うので誰に相談したらよいか迷い・考える
- 相談できる人を自分で見つけている
- 解決策をいっしょに考えてほしいが、なかなかそこにたどり着かない
- 今後家族がいなくなった場合（特に両親）に相談にのってくれる人がいるかどうか心配
- 言語障害があるため
- 悩みを人に伝えられない など

問 16 (2) 障がいについての悩みを話したいと思う人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

相談相手としては、「家族」が最も多く 153 件、「支援者」が 133 件となっている。次いで「同じ障がいをもつ人」が 71 件、「友人」が 67 件となっており、相談相手として 2 割弱の人が「同じ障がいをもつ人」に悩みを相談したいと感じている。

その他ではケアマネージャーや医療従事者、健常者といった回答もある。

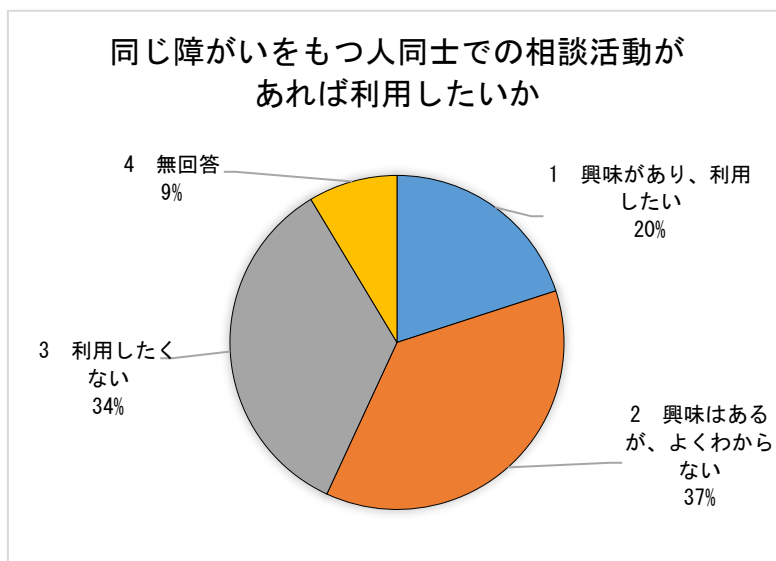


※その他

- ・ケアマネージャー
 - ・障害者専門の相談員
 - ・医者
 - ・医療の方
 - ・健常者のみなさん
- など

問 16 (3) 同じ障がいをもつ人同士で障がいについての悩みを相談するといった活動があれば、利用したいと思いますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

回答者数の 57% の人が「興味がある」と回答している。同じ障がいをもつ人同士で障がいについての悩みを相談することについては、「興味はあるがよく分からない」が 107 件で 37%、「興味があり、利用したい」が 20% となっている。問 4 [同居状況] と照らしあわせると「興味がある」と回答した人は「家族と住んでいる」「ひとり暮らし」が 7 割なのに対し、「家族以外と住んでいる」は約半数となっている。



問 16 (4) 問 16 (3) で、1「興味があり、利用したい」・2「興味はあるが、よくわからない」と答えた方は、どのような相談をしたいですか。ご自由にご記入ください。

◎将来について

- ・ 将来についての不安
- ・ 将来の生活について
- ・ 親なき後の生活を考えている色々な情報をもらいたい
- ・ 両親亡き後の暮らし方
- ・ 自立生活に向けての情報・方法
- ・ 老後の心配相談

など

◎障害について

- ・ 同じ悩みを共有したい
- ・ 同じ障害の方で、生活に役立つ情報、商品、スマホ（音声機能）など、経験談など
- ・ つらいことはないのか
- ・ 困ったときの対処
- ・ どういう場所で活動できるか
- ・ 同じような立場の方がどのような生活をされているのか知りたい
- ・ 地域生活することについて
- ・ 生活全般の事
- ・ 人間関係の築き方を知りたい
- ・ 体のことなど将来的にどんなことで困ったりするのか聞いてみたい
- ・ 症状が進行していく中でどう受け入れていくか。不安をなくしていけるか。自分らしく過ごしていけるかを相談したい

- ・以前より身体機能が低下しているが、他の人はどうやって維持しているか
- ・二次障害について
- ・心身の病気による変化
- ・差別される事が多いのでいかに理解してもらうか
- ・障がい者だけのイベントや集まり
- ・障害に伴う日常生活の不自由さの克服
- ・たくさんの友達を作る会 増やしたい
- ・情報交換 など

◎医療・福祉について

- ・健康状態
- ・病院の情報等伝えてあげたいと思う
- ・良いサービスの情報や良い病院の情報
- ・良い事業所の情報など など

◎その他

- ・興味はあるが、よくわからない
- ・参加してみないとわからない
- ・仕事の話など
- ・香川県で、今後社会参加、就職について
- ・イメージがわからない
- ・逆に他の人の悩みを聞いてみたい
- ・ピアカウンセラーとして活動したい(過去に経験あり)
- ・実際に利用している など

問 16 (5) 問 16 (3) で、3「利用したくない」と答えた方は、その理由をお聞かせください。ご自由にご記入ください。

- 何を相談したらいいかわからない
 - よくわからない
 - 家族や支援者に相談できているので、特に困ったり不安に思うことがない
 - 相談したい事がない
 - あまり自身のことを話したくないし、他に人の話を聞くと自分のことのように悩んでしまうから
 - 同じ障害でも悩みが違うと思うから
 - 大人数より信頼できる少人数で話したいから
 - 知らない人の中には行きたくない
 - 自分にプラスになるかわからないから
 - 解決しないから
 - 行くのが大変だから
 - 思いはあるが伝えることが困難な為
 - 障害が同じ人がいない
 - 話せない
- など

相談時の困りごとでは、「誰に相談すればいいかわからない」「相談しても理解してもらえない」の回答から、自分の身体のことや今後の生活など気軽に相談できる相手がいなかったことがうかがえる。

相談相手では、「家族」以外に「支援者」が多かった。日ごろ関わっている支援者と良好な関係が築けていることがうかがえる。また、同じ障がいをもつ人同士での相談活動を「利用したくない」と回答した人は施設入所の人が多い。また、「利用してみたい」「興味がある」と回答した人の具体的な悩みについては、障がいや将来の不安などをはじめ、活動・社会参加、人間関係についてなど多岐にわたる。多様な悩みに対して実際の体験を元に解決策を考えていくなど、障がい当事者しか担うことができない役割と考えられる。

福祉・医療での専門的な相談体制の充実を図るとともに、同じ障がいをもつ人同士で相談できる環境（ピアサポート活動）についても当事者とともに考えていく必要がある。

【地域生活に関すること】

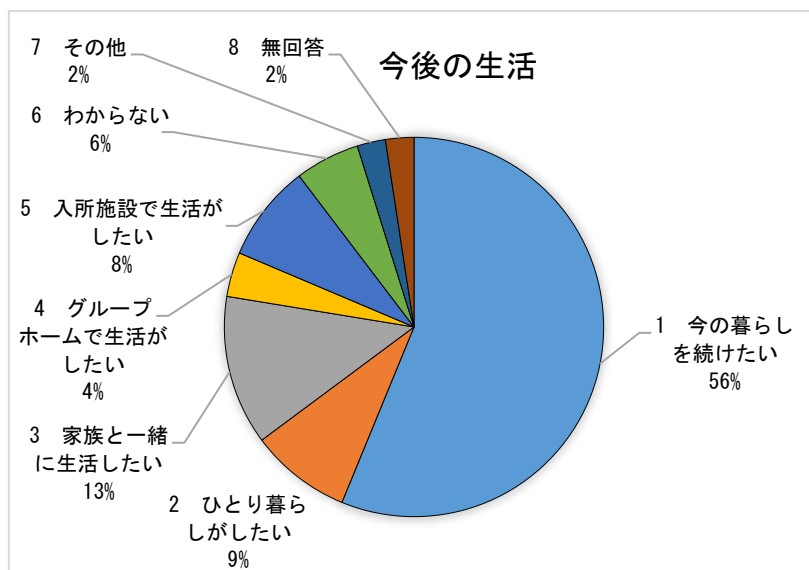
問 17 (1) あなたは今後どのような生活がしたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

どのような生活がしたいかについて、「今の暮らしを続けたい」が最も多く 56%と半数を占めている。次いで、「家族と一緒に生活したい」が 13%、「ひとり暮らしがしたい」が9% 「入所施設で生活がしたい」が8%となっている。

問 3 [住まい] と照らしあわせると、施設入所中で「今の暮らしを続けたい」「入所施設で生活したい」と引き続き施設を希望する人は72%であり、「ひとり暮らしがしたい」「家族と一緒に生活したい」「グループホームで生活したい」と入所施設外での生活を希望する人は22%となっている。

半数以上が現在の生活を続けていきたいと考える一方で、家族との同居やひとり暮らしなどへの移行を希望している人も多い。

また、施設入所以外の方については、「今の暮らしを続けたい」「家族と一緒に生活したい」が78%「ひとり暮らしがしたい」が7%となっており、現在の生活を続けたいと思っている方が多い。



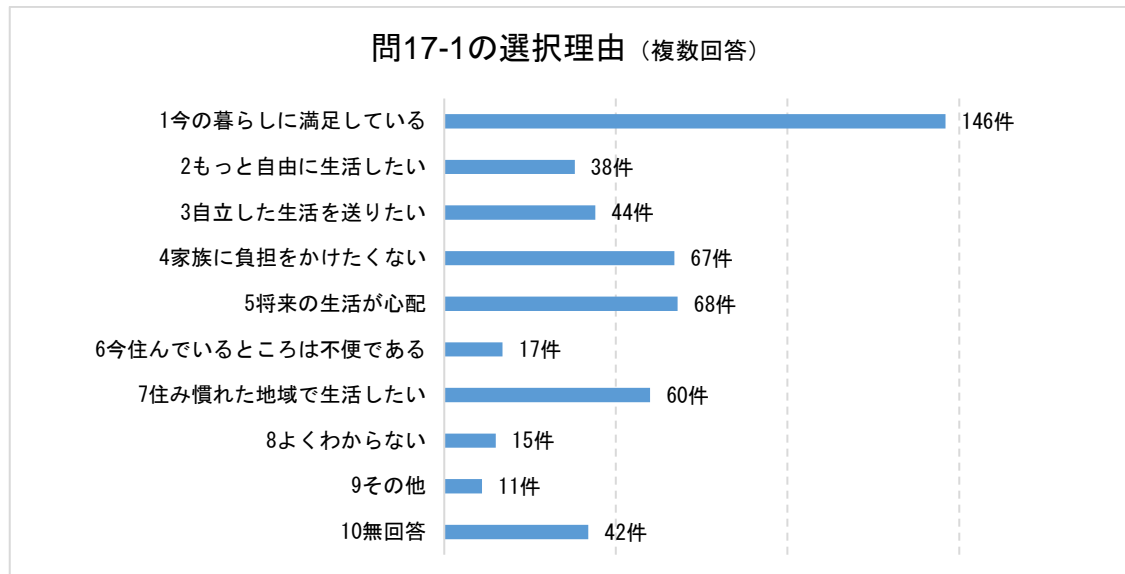
※その他

- 最終的には一人暮らしがしたい
- 両親がいなくなればどこかへ行かなければいけない
- 入所施設の個室を希望

など

問 17 (2) 問 17 (1) で答えた理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「今の暮らしに満足している」が最も多く 146 件であり、50%の人が満足と答えている。次いで「将来の生活が心配」が 68 件、「家族に負担をかけたくない」が 67 件、「住み慣れた地域で生活したい」が 60 件、「自立した生活を送りたい」が 44 件となっている。

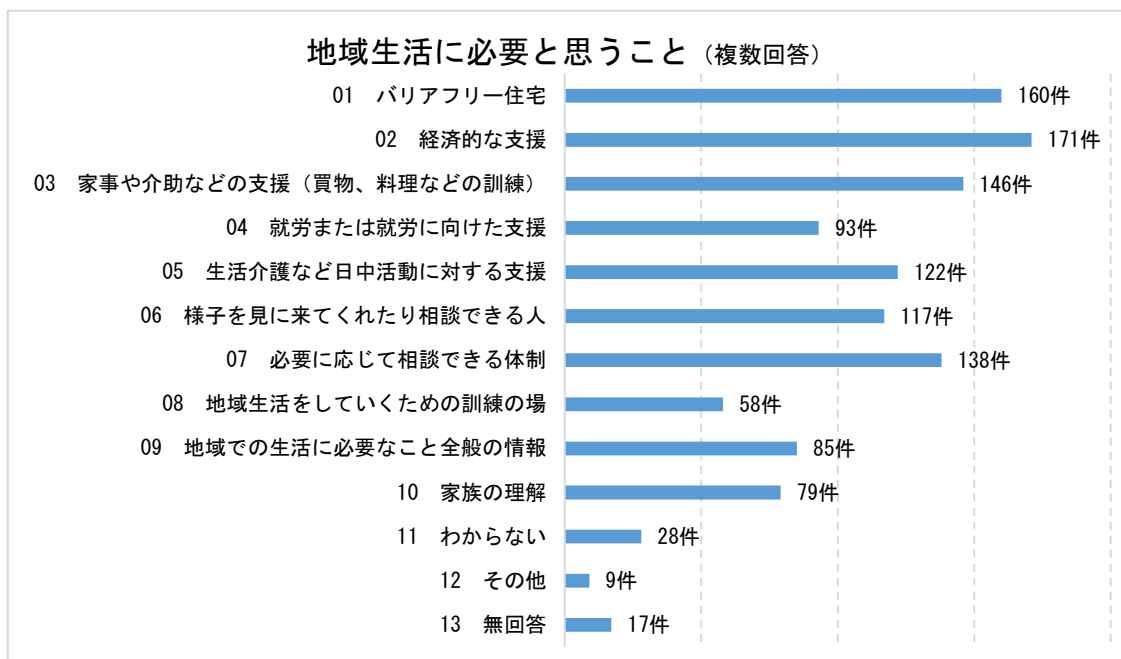


※その他

- ・大家さんが近くいるから
- ・趣味をまんきつしたい
- ・家で静かに生活したい。人が多いのは苦手だから
- ・プライベートの空間を持ちたい
- ・自分が年を取った場合一人では不安なので自由に利用できるシェアホームをつかって欲しい(健常・障害関係なく使える)
- ・本人の希望が分からない など

問 17 (3) 障がい者が地域で生活するために必要と思われることについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

地域で生活するために必要なこととして、「経済的な支援」が最も多く 171 件、「バリアフリー住宅」が 160 件、「家事や介助などの支援(買い物、料理などの訓練)」が 146 件、「必要に応じて相談できる体制」が 138 件となっている。その他では地域の理解や支援も挙げられている。



※その他

- ・ GHの増設(生活の場の拡充)
- ・ 医療費、車椅子等生活介護用品、紙おむつ等
- ・ 障がい者自身の意識と周りの理解
- ・ 地域の人との交流、味方
- ・ 地域の理解

など

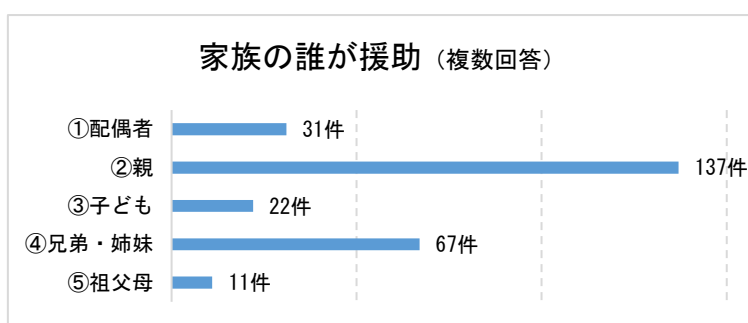
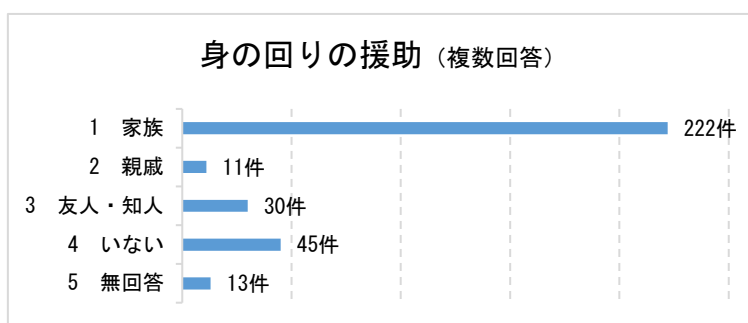
施設入所の人で施設以外での生活を希望する人もいる。施設以外での生活を希望する人が安心して地域生活ができるように、相談支援事業所とサービス提供事業所が協力して社会生活に必要な技術の習得・福祉サービス等社会資源の情報提供を行う必要がある。あわせて、地域生活を体験できる体制の整備が必要と考える。

また、引き続き施設入所を希望する人たちの中には、地域生活のイメージを持つことができない人がいるのではないかと考える。相談支援専門員が行うモニタリングで本人のニーズを引き出し、必要があればサービス等利用計画に落とし込み、情報提供など地域移行にむけた取り組みを行う必要がある。

【将来の生活に関すること】

問 18 (1) 日常生活において、サービス以外で身のまわりのことをしてくれている人は誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

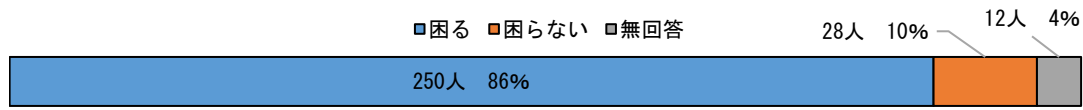
サービス以外で身のまわりのことをしてくれている人については、「家族」が最も多く 222 件となっており、うち「親」が 137 件、「兄弟姉妹」が 67 件、「配偶者」が 37 件となっている。次いで「いない」が 45 件となっている。



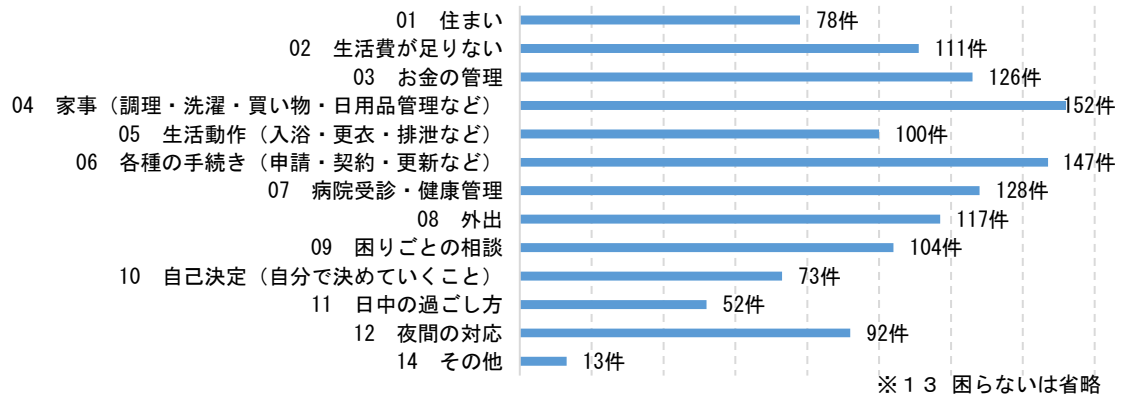
問 18 (2) あなたはサービス以外で身のまわりのことをしてくれる家族等がいなくなったとき、具体的にどのようなことで困りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者の 86%が困ると回答している。援助者がいなくなった時の困りごととして、「家事（調理・洗濯・買い物・日用品管理など）」が最も多く 152 件、次いで「各種の手続き（申請・契約・更新など）」が 147 件、「お金の管理」が 126 件、「病院受診・健康管理」が 128 件、「外出」が 117 件となっている。

援助者がいなくなった時の困りごとの有無



援助者がいなくなった時の困りごと (複数回答)



※その他

- ・胃ろう、吸引必要
- ・医療の同意署名
- ・入院したときの対応
- ・入院時の付き添い
- ・現在、すべて親任せになっているのですべて困ると思う
- ・災害時

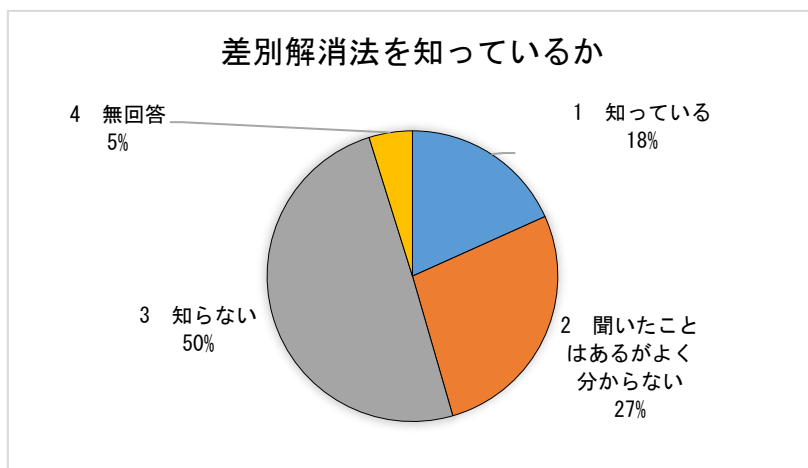
など

援助者がいなくなった時の困りごとでは、ほとんどの項目を選択する人が多く、困りごとを感じているものの、身のまわりのことを家族に依頼しており、何に困るか十分にイメージができていないのではないかと考えられる。身近な援助者が援助できなくなった時のことを少しずつイメージできるようになり、家族等が担っていた役割を代替する福祉サービスの導入や将来を見据えた社会生活力の獲得にむけた訓練ができるよう、情報提供等のサポートをしていく必要がある。

【差別に関すること】

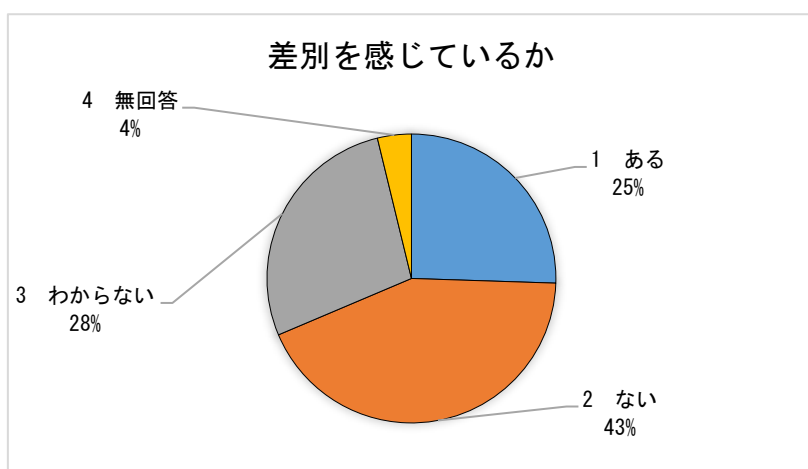
問 19 (1) あなたは「障害者差別解消法」を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

障害者差別解消法について、「知っている」が18%、「聞いたことはあるがよく分からない」が27%、「知らない」が50%となっている。77%の人が「よく分からない」「知らない」となっている。



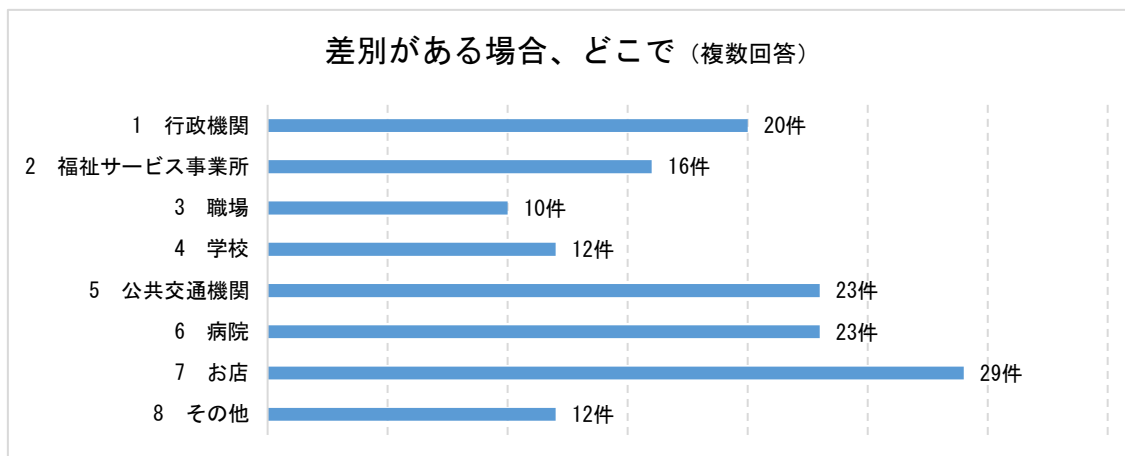
問 19 (2) あなたは差別を受けていると感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

差別を受けていると感じたことが「ある」と回答した人が25%、「ない」が43%、「わからない」が28%となっている。



問 19 (3) 問 19 (2) で、1「ある」と答えた方にお聞きします。あなたはどこで差別を受けていると感じましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

差別を受けていると感じた場所として、「お店」が最も多く 29 件、次いで「公共交通機関」「病院」が 23 件、「行政機関」20 件、「福祉サービス事業所」16 件となっている。



※その他

- ・銀行
- ・道路
- ・自動車学校
- ・外出先
- ・住まい（自宅）

など

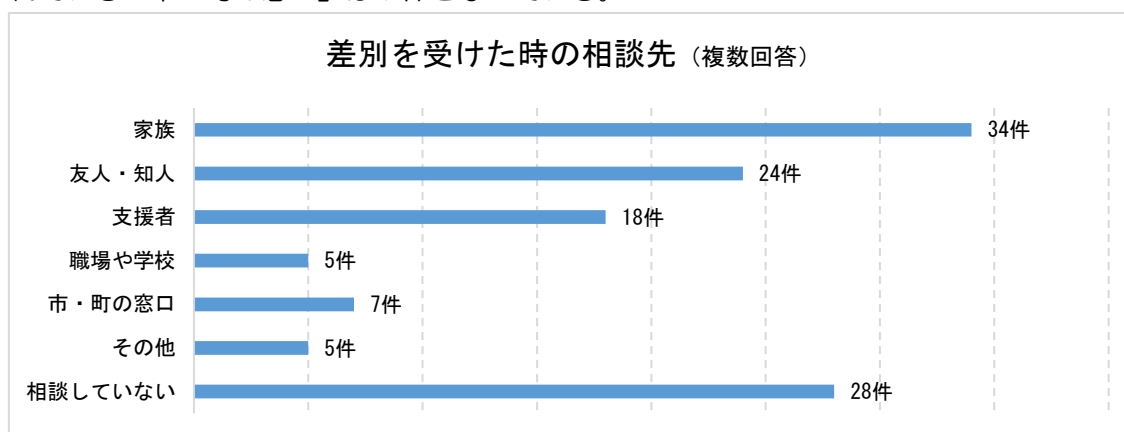
※具体的に

- ・入店を断られた
- ・店でウロウロされては困ると言われたことがある
- ・エレベーターがなく 2 階まで階段で上がられないから（お店、学校）
- ・家で生活していた頃外出で JR に乗ろうとした時に介助をしてもらえなかった
- ・エスカレーターに乗れない（1 回も事故したことがないのに利用させてくれない）
- ・普通に家を選べない
- ・言語が分からないと言われたことがある
- ・外出で JR に乗ろうとした時に介助をもらえなかったことがある
- ・タクシーで乗車拒否にちかいことをされた
- ・近くの病院へ怪我をただけでもみてくれない
- ・受診を後回しにされた
- ・障害児だったので病院での受診を嫌がられた
- ・診たことがない、生まれてからの病気などたくさんあると分からないと言われた

- 静かにできないので飛行機で座席を変更させられた
- 道路の段差をなくしてほしい(車椅子なので)
- 障害者年金の手続きの時に窓口担当者から「一回も掛けたことがないのにもらえるんですからイイですネ」と言われた
- 仕事の能力があるにもかかわらずその仕事をさせてもらえなかった など

問 19 (4) 問 19 (3) で答えた差別を受けたとき、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

相談した先として、「家族」が最も多く 34 件、「友人・知人」が 24 件、「支援者」が 18 件となっており、一方で「相談していない」が 28 件となっている。相談窓口として開設されている「市・町の窓口」は 7 件となっている。

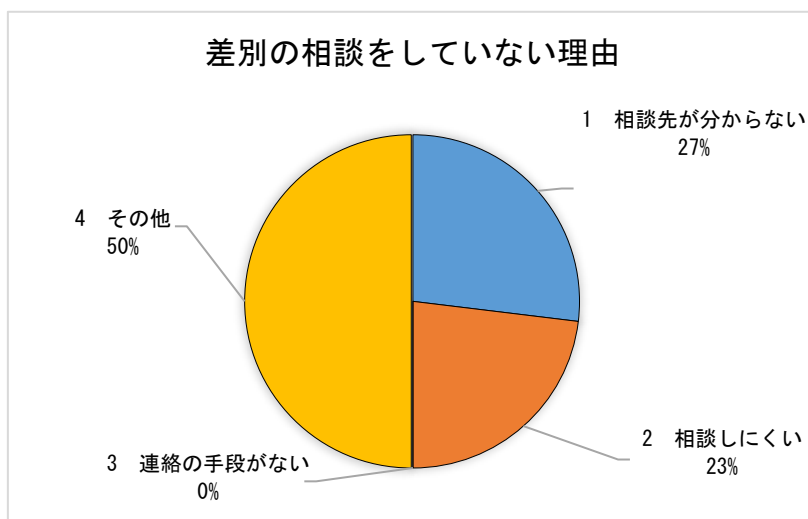


※その他

- 本人に言った
- 自分が相談できると思った人
- いつも親と一緒にいるので口頭ですぐ問う
- お客さんで来ていた精神科医に後日メールで など

問 19 (5) 問 19 (4) で、7「相談していない」と答えた方は、その理由をお答えください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

相談していない理由として、「相談先が分からない」が 27%、「相談しにくい」が 23%となっており、「その他」が 50%を占めている。「その他」のなかには、「相談してもしかたがない」「相談しても解決にならない」「どうにもならない」など相談自体をあきらめている人も多くみられる。



※その他

- ・どうにもならない
- ・めんどくさい
- ・言っても無駄だと思ったから
- ・相談しても解決にならないので
- ・相談しても仕方がない
- ・相談しても状況が変わらないと思ったから
- ・相談しにくい
- ・相談すると二度つらくなる

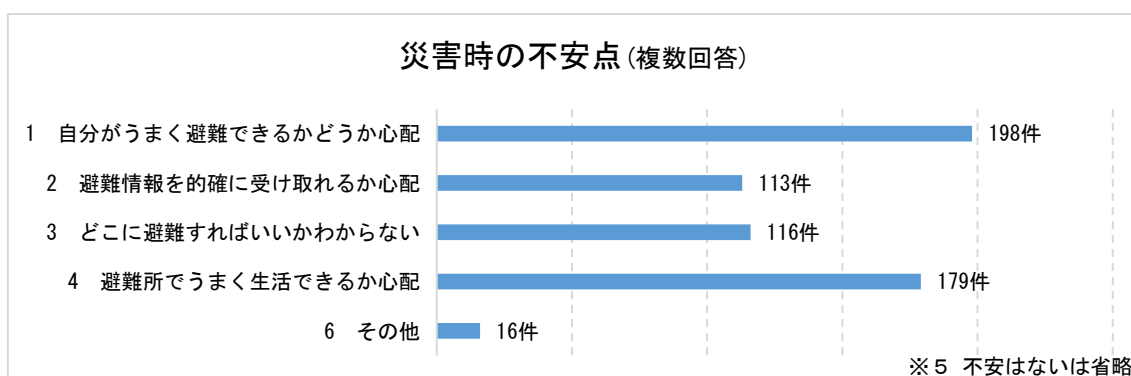
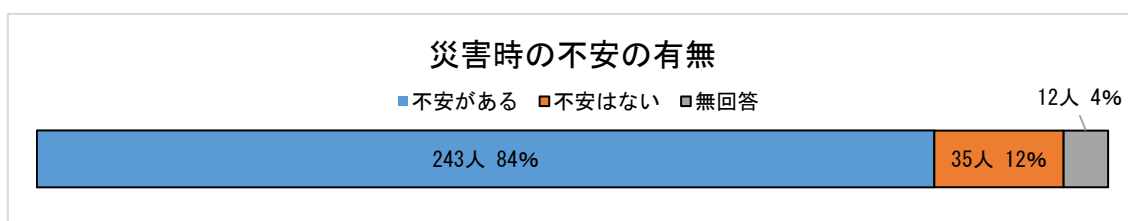
など

障害者差別解消法について半数以上の方が「知らない」と回答しており、どのようなことが差別に当るのか当事者も理解できていない現状がある。また、差別を感じた時の相談先は「家族」、「友人・知人」、「支援者」となっており市町の相談窓口への相談は少ない。相談先が十分に周知されていないことに加えて、上手く対応してもらえなかったこれまでの体験から、「相談しても仕方がない」とあきらめ、相談に繋がらないのではないかと考えられる。地域住民への差別解消法の周知・障がいに対する啓発を行うとともに、当事者に対しても、差別解消法の周知や好事例の情報提供を行う必要があると考えられる。

【災害に関すること】

問 20 (1) あなたは災害時についてどのような不安がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の84%は不安を感じている。災害時の不安として、「自分がうまく避難できるかどうか心配」が最も多く198件、「避難所でうまく生活できるか心配」が179件、「どこに避難すればいいかわからない」が116件、「避難情報を的確に受け取れるか心配」が113件となっている。問6[障がい内容]と照らし合わせると、どの障がいの人も「自分がうまく避難できるかどうか心配」と回答している。

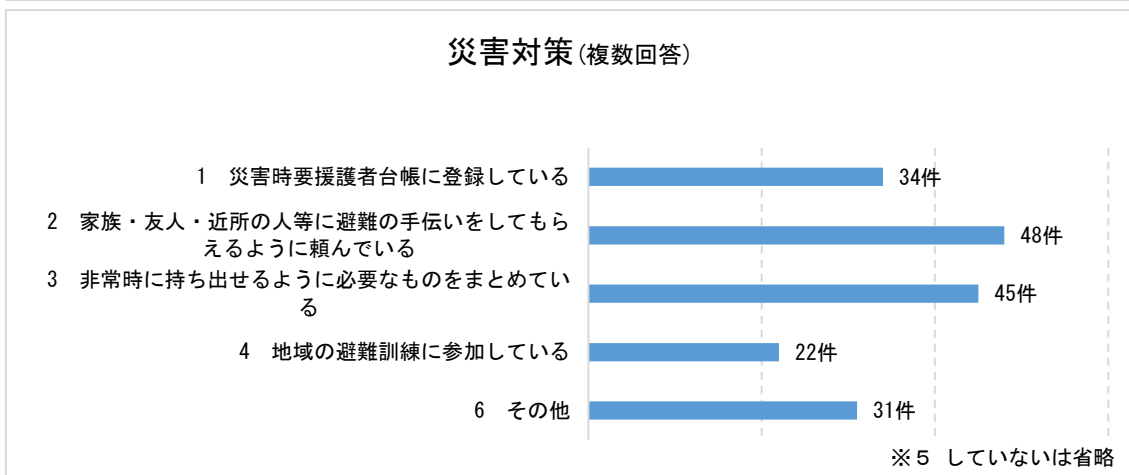
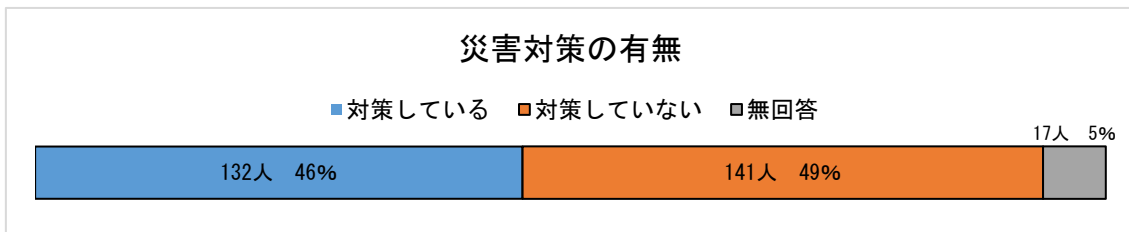


※その他

- ・高松市Net119緊急通報システム利用申請書を出すつもり
- ・災害時要援護者台帳に正しく登録されているのか不安・疑問
- ・食事のことや透析のことなど
- ・停電時の電源確保(医療機器に必要)
- ・装具を急いではけるかどうか心配
- ・誰がたすけてくれるのかな
- ・心配
- ・避難所に行くまでの坂は絶対にムリ
- ・うまく避難できなければ親子一緒にとおもっている
- ・死ぬしかない
- ・重度のため避難はできないとひらきなおっている。覚悟はできている など

問 20(2) 災害時の対策をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答者数の 49%の人が対策や準備をしていない。災害時の対策として、「していない」が最も多く 141 件、次いで「家族・友人・近所の人等に避難の手伝いをしてもらえるように頼んでいる」が 48 件、「非常時に持ち出せるように必要なものをまとめている」が 45 件となっている。「災害時要援護者台帳に登録している」は 34 件となっており、全体の 12%にとどまっている。「その他」31 件となっており、内容としては入所施設等における避難訓練への参加との回答が多い。

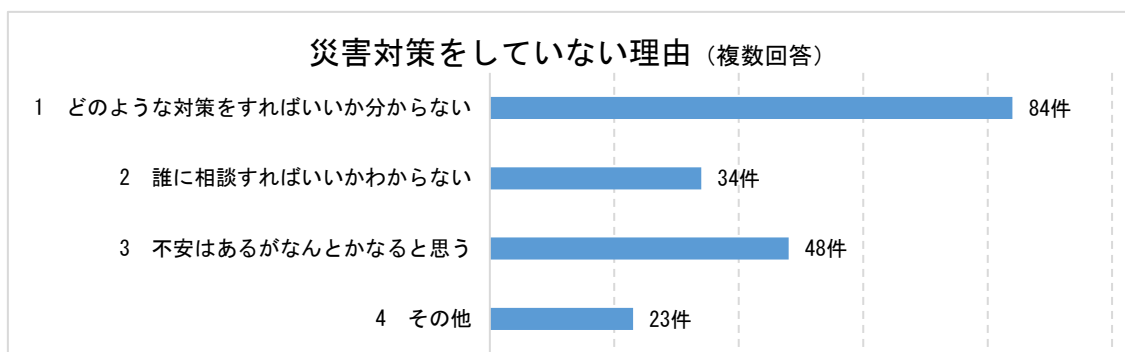


※その他

- 施設の訓練に参加
 - GHで避難訓練に参加
 - 施設内シェイクアウト訓練に参加している
 - 入所施設が計画を立てて備えている
 - 施設の職員に任せている
 - 避難先を家族と相談している
 - 災害時要援護者台帳に登録したい
- など

問 20 (3) 問 20 (2) で、5「していない」と答えた方にお聞きします。災害時の対策をしていない理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

災害時の対策をしていない理由として、「どのような対策をすればいいかわからない」が最も多く 84 件、次いで「不安はあるがなんとかなると思う」が 48 件となっている。



※その他

- 必要な対策がわからない
- これから対策を考えている
- 実際経験したことがないからわからない
- 寝たきり状態のため避難できない
- 障害者となって日が浅い
- 内部疾患なので身は動かせるので
- そこまで手が回らない
- 両親と住んでいるので自分では準備していない
- 施設にいるから
- 今の住宅が高台にある。しかも耐震用
- 避難しようと思っていない
- 親と一緒に死ねたら一番いいと思う。残されたら生きていけない
- しょうがない 足が悪くてどこにも逃げられない
- その時は終わりと思っている
- 自然の摂理に任せる
- あまり気にしていない

など

災害時の不安は多くの方が抱えているものの、対策や準備をしていない人が半数を占めている。災害に対するあきらめや危機感のなさから対策をとっていない人もいることから、災害対策についての啓発が必要であると考えられる。

災害時要援護者台帳の登録者は全体の 12%と少ない。その理由として、“避難支援者”の記入など、登録のハードルの高さがあるのではないかと考えられる。対象になる人については台帳への登録を促していく必要もある。

災害時は近隣住民や民生委員など地域の支援者の支援が必要になる。地域住民に障がいについての啓発を行い、地域一体で災害時の対策について考えていく機会を作るなど、住民同士のたすけ合いを促していく必要がある。